

授業科目名： 代数学概論 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山本 亮介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 指導に必要な基礎的な知識の習得として、中学や高等学校において学習した数学の中から整数の性質に関わる事項について、現代数学の視点から考察し直すことを目的とする。			
授業の概要 整数の諸性質を抽象代数学の視点から確認する。特に合同式を通して諸概念を理解する方法を学修する。			
授業計画 第1回：除法の原理 第2回：約数と倍数(1)： 定義と例 第3回：約数と倍数(2)： 公約数・公倍数 第4回：ユークリッドの互除法(1)： 定義と例 第5回：ユークリッドの互除法(2)： 応用 第6回：合同式(1)： 定義と例 第7回：合同式(2)： 1次合同式 第8回：合同式(3)： 合同式の解 第9回：素数と素因数分解(1)： 素数の定義と性質 第10回：素数と素因数分解(2)： 素因数分解の一意性 第11回：オイラー関数(1)： 定義と例 第12回：オイラー関数(2)： 性質 第13回：フェルマーの小定理(1)： 定理とその証明 第14回：フェルマーの小定理(2)： 定理の応用 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 「整数論」雪江明彦 著・日本評論社			
参考書・参考資料等 「発見・予想を積み重ねる ―それが整数論」安福悠 著・オーム社			

学生に対する評価

小レポート(20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)

授業科目名： 代数学概論 2		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山本 亮介
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標				
指導に必要な基礎的な知識の習得として、中学や高等学校において学習した数学の中から、線形写像に関わる事項について整理し考察し直す。これにより線形代数学の視点を修得する。				
授業の概要				
連立 1 次方程式をベクトルと線形写像に関わる方程式と見なすことにより、連立 1 次方程式の解の振る舞いや解の求め方についての理論的背景を理解する。				
授業計画				
第 1 回：ベクトル、行列				
第 2 回：行列の定義、和・スカラー倍				
第 3 回：行列の積				
第 4 回：様々な行列				
第 5 回：逆行列、正則行列				
第 6 回：掃き出し法				
第 7 回：線形写像(1)： 定義と例				
第 8 回：線形写像(2)： 像と核				
第 9 回：連立 1 次方程式(1)： 行列表示				
第 1 0 回：連立 1 次方程式(2)： 解空間				
第 1 1 回：行列式(1)： 2 次、3 次の行列				
第 1 2 回：行列式(2)： 一般次元における定義・性質				
第 1 3 回：余因子展開(1)： 余因子の定義				
第 1 4 回：余因子展開(2)： 一般次元の行列式計算				
第 1 5 回：クラメールの公式				
定期試験				
テキスト				
「線形代数の基礎」寺田文行、木村宣昭著・サイエンス社				
参考書・参考資料等				
授業中に適宜資料を配布する。				

学生に対する評価

小レポート(20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)

授業科目名： 代数学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山本 亮介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 線形空間と線形写像の概念への理解を確かなものとし、線形写像をその行列表現を通して調べる方法の習得を目的とする。			
授業の概要 線型空間とその基底の概念と役割を学修する。その上で、行列の固有値・固有ベクトル、さらに対角化の概念を学び、それらを使って与えられた線形写像の特性を調べる。			
授業計画 第1回：線形空間の定義と例 第2回：ベクトルの1次独立性 第3回：ベクトルの内積(1)： 定義と例・基本性質 第4回：ベクトルの内積(2)： 幾何ベクトルへの応用 第5回：線形空間の基底(1)： 基底の定義・基底の変換 第6回：線形空間の基底(2)： 正規直交基底 第7回：線形写像(1)： 線形写像の定義，行列表示 第8回：線形写像(2)： 像と核 第9回：線形写像(3)： 次元定理 第10回：行列の相似 第11回：固有値と固有ベクトル(1)： 定義と例 第12回：固有値と固有ベクトル(2)： 応用 第13回：行列の対角化(1)： 定義と例 第14回：行列の対角化(2)： 応用 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 「線形代数の基礎」寺田文行、木村宣昭著・サイエンス社			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

小レポート(20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山本 亮介
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標			
数の体系が自然に持つ代数構造として、群・環・体の概念を学修し、それらの一般的性質を把握することにより、数に対する抽象的・根本的な理解を深めることを目的とする。			
授業の概要			
群・環・体それぞれの定義とその要点を多くの具体例を通して解説し、これらの代数構造を記述・把握する方法を学ぶ。			
授業計画			
第1回：群の定義(1)： 群の公理，具体例			
第2回：群の定義(2)： 乗積表			
第3回：部分群			
第4回：剰余群			
第5回：群の準同型・同型			
第6回：群の準同型定理			
第7回：ここまでのまとめ			
第8回：環と体(1)： 定義と具体例			
第9回：環と体(2)： 整域			
第10回：イデアル			
第11回：有理整数環			
第12回：ユークリッドの互除法			
第13回：多項式環			
第14回：環の準同型定理			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
「代数学入門」松坂和夫 著・岩波書店			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する。			

学生に対する評価

小レポート(20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)

授業科目名： 幾何学概論 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：安部 哲哉
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 平面や空間を集合として理解する。 2. 命題論理や述語論理を理解する。 3. 関数概念の拡張である写像を理解する。 4. 「同じとはなにか？」と関係する同値関係を理解する。 5. カントールの対角線論法を用いて、自然数全体のなす集合の濃度と実数全体のなす集合の濃度が異なることを理解する。			
授業の概要			
指導に必要な基礎的な知識の習得のために、中学校や高等学校で学習した数学の中から幾何学の分野の事項について、それぞれの教材の意味を現代数学の視点から考察し直すことを目的とする。			
授業計画			
第1回：集合の基礎（1）定義と具体例			
第2回：集合の基礎（2）集合の演算			
第3回：集合の基礎（3）直積集合・べき集合			
第4回：命題論理（1）命題、論理記号			
第5回：命題論理（2）真偽表			
第6回：述語論理（1）全称記号と存在記号			
第7回：述語論理（2）証明			
第8回：写像（1）定義と例			
第9回：写像（2）逆像と逆写像			
第10回：写像（3）全射と単射			
第11回：同値関係			
第12回：集合の濃度（1）定義と具体例			
第13回：集合の濃度（2）可算濃度と連続濃度			
第14回：集合の濃度（3）濃度の大小、カントールの対角線論法			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

藤岡敦 著「手を動かしてまなぶ 集合と位相」裳華房

参考書・参考資料等

授業内で適宜、紹介する。

学生に対する評価

平常点（50%）と定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 幾何学概論 2		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：安部 哲哉
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標				
1. ベクトルの内積、外積について理解する。				
2. 直線や平面のベクトル方程式について理解する。				
3. 幾何学に必要な線形代数学の基礎（ベクトル空間、ベクトル空間の部分空間、正規直交基底、直交変換）を理解する。				
4. ユークリッド空間の合同変換の性質を理解する。				
授業の概要				
ユークリッド空間と幾何ベクトルについて学修する。				
授業計画				
第1回：ユークリッド空間と幾何ベクトル				
第2回：ベクトルの演算				
第3回：ベクトルの内積、外積				
第4回：直線のベクトル方程式（1）平面上の直線について				
第5回：直線のベクトル方程式（2）空間内の直線について				
第6回：平面のベクトル方程式（1）平面の法線ベクトル				
第7回：平面のベクトル方程式（2）平面の方向ベクトル				
第8回：様々な図形のベクトル方程式				
第9回：ベクトル空間の部分空間とその基底				
第10回：正規直交基底と直交変換				
第11回：ユークリッド空間の合同変換（1）基本的な合同変換				
第12回：ユークリッド空間の合同変換（2）合同変換の性質				
第13回：ユークリッド空間の合同変換（3）合同変換の行列表示				
第14回：ユークリッド空間の合同変換（4）合同変換の分類				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
藤岡敦 著「幾何学入門教室：線形代数から丁寧に学ぶ」共立出版				

参考書・参考資料等

関沢正躬著「解析幾何学入門一直線と平面から2次曲面へ」 日本評論社

学生に対する評価

平常点（50%）と定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 幾何学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：安部 哲哉
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 1. 距離関数、および距離空間の定義を理解する。 2. 開集合の定義を理解する。 3. 連続写像の定義を理解する。 4. 位相、および位相空間の定義を理解する。 5. 位相区間のコンパクト性や連結性を理解する。			
授業の概要 現代数学における空間概念の一つである、距離空間と位相空間について学修する。			
授業計画 第1回：ユークリッド空間の距離 第2回：距離関数 第3回：様々な距離空間 第4回：距離空間の開集合 第5回：距離空間の閉集合、開核、閉包 第6回：連続写像 第7回：コーシー列と完備性 第8回：位相の導入 第9回：位相の強弱と同相 第10回：距離空間と位相空間 第11回：位相空間のコンパクト性（1）コンパクト位相空間の定義 第12回：位相空間のコンパクト性（2）位相空間のコンパクト化 第13回：位相空間のハウスドルフ性 第14回：位相空間の連結性（1） 第15回：位相空間の連結性（2） 定期試験			
テキスト 藤岡敦 著「手を動かしてまなぶ 集合と位相」裳華房			

参考書・参考資料等

授業内で適宜、紹介する。

学生に対する評価

平常点（50%）と定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：安部 哲哉
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 平面曲線の弧長パラメータを理解する。 2. 平面曲線の曲率が計算できる。 3. 2次曲線の分類を理解する。 4. 結び目や絡み目に慣れ親しむ。 5. ジョーンズ多項式の計算ができる。			
授業の概要			
微分幾何学の初歩（曲線論）と位相幾何学の初歩（結び目理論）について学修する。			
授業計画			
第1回：2次曲線について			
第2回：曲線のパラメータ表示、陰関数表示、グラフ表示			
第3回：曲線の表示方法の比較			
第4回：曲線の弧長パラメータ			
第5回：曲線の曲率			
第6回：曲率の計算			
第7回：曲率の幾何学的な意味			
第8回：曲率の不変性			
第9回：2次曲線の分類			
第10回：平面曲線から空間曲線へ			
第11回：結び目と絡み目の定義			
第12回：図式とライデマイスター移動			
第13回：絡み数（linking number）			
第14回：ジョーンズ多項式（1）カウフマン括弧			
第15回：ジョーンズ多項式（2）計算			
定期試験			
テキスト			
梅原 雅顕, 山田 光太郎 著「曲線と曲面：微分幾何的アプローチ（改訂版）」裳華房			

参考書・参考資料等

村上 斉 著「結び目のはなし [新装版] 」日本評論社

学生に対する評価

平常点（50%）と定期試験（50%）で評価する。

授業科目名： 解析学概論 1	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：源嶋 孝太
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校・高等学校の数学教員として必要な解析学の素養を身につけるために、関数の基本的な性質と 1 変数関数の微分法を学ぶ。（1）指数法則などを用いた指数・対数の計算や、加法定理を用いた三角関数の計算ができるようになること、（2）導関数に関する基本的な公式を身につけ、それを利用して導関数の計算ができるようになること、（3）導関数の応用について理解することを目標とする。			
授業の概要			
初等関数の基本的な性質を復習したのち、それらの導関数について学ぶ。そして、導関数が、不定形の極限の計算や関数のグラフの概形を描く際に役立つことを学んでいく。			
授業計画			
第 1 回：関数とそのグラフ			
第 2 回：指数関数、対数関数とその基本的な性質			
第 3 回：三角関数とその基本的な性質			
第 4 回：加法定理と関連する公式			
第 5 回：関数の極限と連続関数			
第 6 回：逆関数、逆三角関数			
第 7 回：微分係数と導関数			
第 8 回：導関数の計算 1（関数の和、定数倍、積、商の導関数の公式）			
第 9 回：導関数の計算 2（合成関数や逆関数の導関数の公式）			
第 1 0 回：指数関数、対数関数の導関数の公式			
第 1 1 回：三角関数の導関数の公式			
第 1 2 回：逆三角関数の導関数の公式			
第 1 3 回：平均値の定理とロピタルの定理			
第 1 4 回：関数の極値とグラフの概形			
第 1 5 回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
毎回、講義内容に合わせた資料を配布する。			

参考書・参考資料等

「1冊でマスター 大学の微分積分」石井 俊全、技術評論社

「演習 大学基礎数学 微分積分キャンパス・ゼミ」馬場 敬之、マセマ出版社

学生に対する評価

定期試験、課題および講義中の小テストで「到達目標」の達成度を測り、評価する。

定期試験 70%、その他（課題および講義中の小テスト）30%

授業科目名： 解析学概論 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：源嶋 孝太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校の数学教員として必要最低限の解析学の素養を身につけるために、数列に関する基本事項と 1 変数関数の積分法を学ぶ。（1）数列、級数に関する基本的な計算ができるようになること、（2）積分に関する基本的な公式を身につけ、それを利用して積分の計算ができるようになること、（3）積分の応用について理解することを目標とする。			
授業の概要 数列の基本事項と定積分の計算方法、および、定積分の面積計算への応用について学ぶ。			
授業計画 第 1 回：数列 第 2 回：数列の極限、無限級数 第 3 回：微分法の復習 第 4 回：不定積分の定義と基本的な性質 第 5 回：不定積分の計算 1（初等関数の不定積分） 第 6 回：不定積分の計算 2（置換積分法） 第 7 回：不定積分の計算 3（部分積分法） 第 8 回：定積分の定義と基本的な性質 第 9 回：定積分の計算 1（初等関数の定積分） 第 10 回：定積分の計算 2（置換積分法） 第 11 回：定積分の計算 3（部分積分法） 第 12 回：加法定理を用いた三角関数の積分 第 13 回：有理関数の積分 第 14 回：積分の応用（面積の計算、回転体の体積の計算） 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト 毎回、講義内容に合わせた資料を配布する。			
参考書・参考資料等 「1冊でマスター 大学の微分積分」石井 俊全、技術評論社			

「演習 大学基礎数学 微分積分キャンパス・ゼミ」馬場 敬之、マセマ出版社

学生に対する評価

定期試験、課題および講義中の小テストで「到達目標」の達成度を測り、評価する。

定期試験 70%、その他（課題および講義中の小テスト）30%

授業科目名： 解析学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：源嶋 孝太
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
2変数関数の微分積分学の基本事項について学ぶ。（1）2変数関数の極限や微分、積分の基本的な計算ができるようになること、（2）偏微分と全微分の違いを理解すること、（3）重積分の変数変換公式を理解すること、（4）2変数関数の微分積分の応用について理解することを目標とする。			
授業の概要			
主に2変数多項式関数、またはその商（有理関数）を扱う。前半は、2変数関数の極限、偏微分について学び、その応用として極値問題を扱う。後半は、重積分の計算方法と、面積や体積への重積分の応用について学ぶ。			
授業計画			
第1回：2変数関数とそのグラフ			
第2回：2変数関数の極限と連続性			
第3回：偏導関数の計算			
第4回：高階偏導関数の計算			
第5回：全微分と接平面			
第6回：2変数関数の極値問題			
第7回：最大値・最小値問題			
第8回：前半のまとめ			
第9回：重積分の定義と基本的な性質			
第10回：フビニの定理			
第11回：重積分の変数変換公式			
第12回：極座標変換を用いた重積分の計算			
第13回：重積分の応用1（体積の計算）			
第14回：重積分の応用2（表面積の計算）			
第15回：後半のまとめ			
定期試験			
テキスト			
毎回、講義内容に合わせた資料を配布する。			

参考書・参考資料等

「入門微分積分」三宅敏恒、培風館

「1冊でマスター 大学の微分積分」石井 俊全、技術評論社

「演習 大学基礎数学 微分積分キャンパス・ゼミ」馬場 敬之、マセマ出版社

学生に対する評価

定期試験、課題および講義中の小テストで「到達目標」の達成度を測り、評価する。

定期試験 70%、その他（課題および講義中の小テスト）30%

授業科目名： 解析学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：源嶋 孝太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
扱う対象を実数変数の関数から複素数変数の関数に広げた、微分積分学の基本事項を学ぶ。 （１）複素変数の初等関数について理解し、説明できるようになること、（２）正則関数の性質を理解すること、（３）極や留数の計算ができるようになること、（４）留数定理を用いた実積分の計算ができるようになることを目標とする。			
授業の概要			
正則関数や有理型関数の理論を通して、実数の世界だけでは解決できなかった多くの問題が、複素数を用いることにより解決されることを学ぶ。前半は、複素数の基本事項から始め、複素関数とその微分について学ぶ。後半は、複素線積分を導入し、コーシーの積分定理と留数定理について学ぶ。そして、それらが代数学の基本定理や実積分の計算へ応用されることを学んでいく。			
授業計画			
第１回：複素数平面（複素数の定義と極形式、複素数平面の領域）			
第２回：複素関数１（指数関数、三角関数）			
第３回：複素関数２（対数関数、累乗関数）			
第４回：複素数平面の曲線			
第５回：複素関数の極限			
第６回：正則関数とコーシー・リーマンの関係式			
第７回：前半のまとめ			
第８回：複素線積分			
第９回：コーシーの積分定理			
第１０回：代数学の基本定理の証明			
第１１回：極とその位数			
第１２回：留数定理			
第１３回：実積分の計算への応用１（三角関数の積分）			
第１４回：実積分の計算への応用２（有理関数の積分）			
第１５回：後半のまとめ			
定期試験			

テキスト
毎回、講義内容に合わせた資料を配布する。
参考書・参考資料等
「1冊でマスター 大学の複素関数」石井 俊全、技術評論社 「複素関数キャンパス・ゼミ」馬場 敬之、マセマ出版社
学生に対する評価
定期試験、課題および講義中の小テストで「到達目標」の達成度を測り、評価する。 定期試験 70%、その他（課題および講義中の小テスト）30%

授業科目名： 確率・統計学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西仲（本田） 則博
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 統計学に関する教育や指導能力を高めるための数理統計学の基礎知識を習得する。 統計学に関する数学的な思考力や独特な考え方を身に付ける。 教育データや実データ解析への応用感覚を身に付ける。			
授業の概要 中学校、高等学校でのデータの活用領域の学習を振り返り、そこにある数学的な考え方や統計・確率の考え方を講義と演習において身につけていく。			
授業計画 第1回：カウンティングと量の分類について 第2回：表やグラフについて 第3回：中心の特性値 第4回：分ばらつきの特性値 第5回：相関係数と回帰直線 第6回：古典的テスト理論を用いたテスト分析（1）選択枝問題の項目困難度（正答率） 第7回：古典的テスト理論を用いたテスト分析（2）選択枝問題の識別力指数（点双列相関係数） 第8回：確率とその基本性質 第9回：独立試行と反復試行，条件付き確率 第10回：離散型の確率変数と確率分布・期待値と分散 第11回：連続型の確率変数と確率分布 第12回：二項分布 第13回：大数の法則・中心極限定理 第14回：二項分布の正規分布近似，正規分布の性質について 第15回：正規分布とその応用，母集団と標本 定期試験			
テキスト 資料配布，授業で適宜紹介。			
参考書・参考資料等 「分布からはじめる確率・統計入門—実用のための直感的アプローチ」岩沢宏和（東京図書）			

2016

「第4版 理工系の確率・統計入門」服部徹也（学術図書出版社）2019

「第2版 確率分布と統計入門」服部哲也（学術図書出版社）2020

「サイコロから学ぶ 確率論：基礎から確率過程入門へ」小林道正（裳華房）2018

「COUNTING データ全盛の時代を生き抜く数字力の磨き方」デボラ ストーン
（ニュートンプレス）2022

「確率統計入門 モデル化からその解析へ」渡辺浩・宮部賢志（森北出版株式会社）2020

学生に対する評価

試験（40％）毎回の小テスト（40％）小レポート・演習（20％）

授業科目名： データの活用と分析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西仲（本田） 則博
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 統計学に関する教育や指導能力を高めるための数理統計学の基礎知識を習得する。 確率分布・統計学に関する数学的な思考力や独特な考え方を身に付ける。 教育データや実データ解析への応用感覚を身に付ける。			
授業の概要 この授業は「確率・統計学概論」に引き続く授業である。前半では、数理統計学で用いられる「確率分布」として、幾何分布・ポアソン分布などの離散的分布や指数分布・正規分布などの連続的分布を紹介する。実用的な問題でしばしば用いられるカイ二乗分布やt分布なども取り上げる。後半では、これらの確率分布に関する知識に基づいて、点推定・区間推定・最尤推定などの「推定」や様々な「仮説検定」を解説し、pythonやRを用いてその演習を行う。			
授業計画 第1回：離散型の確率分布（幾何分布・ポアソン分布） 第2回：連続型の確率分布（一様分布・指数分布） 第3回：連続型の確率分布（カイ二乗分布，t分布） 第4回：幾何分布およびランダムウォーク 第5回：確率変数・標本平均の分布 第6回：点推定と区間推定 第7回：母平均の区間推定 第8回：母比率の区間推定 第9回：仮説検定の考え方と方法 第10回：母平均の検定 第11回：対応がある場合の平均の差の検定 第12回：母比率の検定・カイ2乗分布 第13回：母分散の検定・適合度検定 第14回：独立性の検定 第15回：これまでのまとめ 定期試験			
テキスト			

資料配布，授業で適宜紹介。

参考書・参考資料等

「分布からはじめる確率・統計入門―実用のための直感的アプローチ」岩沢宏和（東京図書）2016

「第4版 理工系の確率・統計入門」服部徹也（学術図書出版社）2019

「第2版 確率分布と統計入門」服部哲也（学術図書出版社）2020

「サイコロから学ぶ 確率論：基礎から確率過程入門へ」小林道正（裳華房）2018

「確率統計入門 モデル化からその解析へ」渡辺浩・宮部賢志（森北出版株式会社）2020

学生に対する評価

試験（40％）各回の小テスト（40％）小レポート・演習（20％）

授業科目名： コンピュータ概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：内田 祐貴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 情報社会を支えるコンピュータの基本的な技術を理解することができる。 ・ コンピュータの基本的な仕組みを理解できる ・ コンピュータを操作し、情報を活用することができる			
授業の概要 ハードウェアとソフトウェアの両方から、コンピュータの基本的な仕組みを理解する。コンピュータ上では、情報がどのように表されるのか、そしてそれが社会でどう活用されているかを学び、いくつかの例を対象に、実際にコンピュータを用いて情報を活用していく。			
授業計画 第1回 授業の概要説明と導入（高等学校までの「情報」の振り返り） 第2回 情報テクノロジーの進歩とコンピュータ 第3回 コンピュータの仕組み① コンピュータの構成要素 第4回 コンピュータの仕組み② アナログ情報とデジタル情報 第5回 コンピュータの仕組み③ 数値による文字や記号の表現 第6回 コンピュータの仕組み④ 論理回路の基本要素と演算 第7回 社会におけるコンピュータの利用① 音、画像、データ 第8回 社会におけるコンピュータの利用② ネットワーク 第9回 社会におけるコンピュータの利用③ 情報セキュリティ 第10回 社会におけるコンピュータの利用④ コミュニケーションと情報デザイン 第11回 Society5.0 時代の情報システム① 社会と情報科学 第12回 Society5.0 時代の情報システム② 教育分野での活用 第13回 プレゼンテーション制作演習 第14回 プレゼンテーションと相互評価 第15回 まとめ			
テキスト 室蘭工業大学現代情報学研究会，現代社会と情報システム（朝倉書店）			
参考書・参考資料等 文部科学省，中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編			

文部科学省, 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編

学生に対する評価

平常点（50％）、レポート（50％）

授業科目名： プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：内田 祐貴
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
アルゴリズムの重要性とそれを実現するためのプログラミングの基礎について理解することができる。 ・ プログラミングの仕組みを理解できる ・ 基本的なアルゴリズムを理解することができる ・ 初歩的なプログラミングができる			
授業の概要			
コンピュータに情報を処理させるためには、どのように計算させればよいかなどのアルゴリズムが重要である。この授業では、コンピュータの仕組みとアルゴリズムの基礎を学ぶ。そして、プログラミング演習で、コンピュータに意図した処理を行わすことができるようにする。			
授業計画			
第1回 授業の概要説明（授業の進め方、到達目標など）			
第2回 プログラミングの基礎知識① ソフトウェアとハードウェア			
第3回 プログラミングの基礎知識② オペレーティングシステムとアプリケーションソフトウェア			
第4回 プログラミングの基礎知識③ プログラミング言語			
第5回 プログラミングの基礎知識④ アルゴリズム			
第6回 プログラミングの基礎知識⑤ フローチャート			
第7回 プログラミング演習基本① 変数とデータ形式			
第8回 プログラミング演習基本② 判断、条件			
第9回 プログラミング演習基本③ 繰り返し			
第10回 プログラミング演習応用① 配列			
第11回 プログラミング演習応用② 探索			
第12回 プログラミング演習応用③ 教育現場での利用			
第13回 課題演習① アルゴリズムの検討とフローチャート作成			
第14回 課題演習② ソースコード作成			
第15回 まとめ			
テキスト			
室蘭工業大学現代情報学研究会，現代社会と情報システム（朝倉書店）			

参考書・参考資料等
文部科学省, 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編
文部科学省, 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 数学編 理数編
学生に対する評価
平常点（50％）、課題提出（50％）

授業科目名： 情報と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大久保 紀一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
情報化やメディアの発展が著しい社会の中において、それらが学校教育へ及ぼす影響、今日の教育課題との関連について学ぶ。 ・ 情報化やメディアの発展と社会の関係性を理解し、その概要を説明することができる。 ・ 情報化やメディアと今日の教育課題を関連づけて実態を理解するとともに、その解決策を自分なりに考えることができる。			
授業の概要			
本講義では、情報やメディアとその影響による社会変容について理解した上で、情報やメディアと関連させて学校教育の実態について理解し、今後の展望について検討する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス メディア環境と社会，教育			
第2回：情報とメディア			
第3回：ネットワークとSociety5.0			
第4回：ビッグデータとその利活用			
第5回：AIの発展と社会の変容			
第6回：教育の情報化と社会背景			
第7回：情報活用能力の育成			
第8回：教師によるICT活用			
第9回：生徒によるICT活用			
第10回：情報モラル教育			
第11回：メディア・リテラシーと情報活用能力			
第12回：STEAM教育とプログラミング教育			
第13回：校務の情報化			
第14回：学校の情報管理			
第15回：本講義のまとめ			
テキスト			
教科書は使用しない。			
参考書・参考資料等			

『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田 龍也・佐藤 和紀（三省堂）

「教育の情報化の手引き」（文部科学省）

「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」 （文部科学省）

学生に対する評価

評価は，授業で出題する小レポート及び中間レポート，最終レポートの結果により，総合的に判断して行う。

- ・各授業回の小レポート：45%
- ・中間レポート：15%
- ・最終レポート：40%

授業科目名： 数学教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本 亮介、 安部 哲哉、源嶋 孝太 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 数学史の学修を通して、現代数学の立場から、中学校や高等学校で学ぶ数学に関して、目標、内容、方法という3つの視点から教材研究を行う能力を養う。			
授業の概要 代数、幾何、解析を担当する教員による数学的概念の形成史の講義を通して、数とは何か、等号とは何か、図形とは何か、関数とは何かという数学的な考え方や見方を習得する。			
授業計画 第1回：数え方と記数法（山本） 第2回：量と測定（山本） 第3回：分数と小数：対数の発見（山本） 第4回：無理数・負の数・虚数（山本） 第5回：方程式とその解（山本） 第6回：円周率（安部） 第7回：ピタゴラスの定理とフェルマーの最終定理（安部） 第8回：ユークリッド幾何学(1):図形の合同（安部） 第9回：ユークリッド幾何学(2):平行線公準と座標（安部） 第10回：非ユークリッド幾何学（安部） 第11回：多項式関数・指数関数・対数関数（源嶋） 第12回：三角関数（源嶋） 第13回：収束と極限（源嶋） 第14回：微分積分の誕生（源嶋） 第15回：実数（源嶋） 定期試験			
テキスト 適時、プリントなどを配布する。また、内容に合わせて、適切なテキストを使用する。			
参考書・参考資料等 物語 数学の歴史—正しさへの挑戦(2009) 中央公論新社 はじめからの数学(1)幾何学・(2)代数学(2005) 青土社			

解析教程 上・下 新装版(2012)丸善出版

学生に対する評価

中間試験 60% (5回ごとに計3回、各回20%)、定期試験 40%

数学史の学修を中学数学科や高等学校数学科の教材研究に、いかに具体的に役立てることができたかを評価の対象とする。

授業科目名： 数学科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹村 景生
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
○授業のテーマ				
数学教育の基礎知識、数学の授業づくりの基本を学び、将来中学校または高等学校教員として数学を指導するにあたっての実践力を養う。				
○授業の到達目標				
1) 中学校数学科の目標、内容（主に、数と式、図形）及び指導方法に関する基礎的な知識を獲得する。				
2) 中学校数学科の内容やその指導方法への関心・意欲を高め、授業実践に活かそうとする。				
3) 中学校数学科の指導内容を踏まえ、教材のもつ数学的な背景や教育的意義について考察することができる。				
4) 数学の指導案や授業展開の仕組みなど、数学の指導法の基礎について理解することができる。				
授業の概要				
学習指導要領に示された中学校数学科の目標と学習内容（主に、数と式、図形）をはじめ、数学の学習指導の過程、学習評価の考え方など、数学の授業をつくる上での基礎を学ぶとともに、数学科教員に必要な資質・能力を習得する。				
授業計画				
第1回：中学校、高等学校での数学の授業や学習の振り返り				
第2回：日本の中学の実態（数と式、図形）（全国学力・学習状況調査など）				
第3回：中学校数学科の目標と学習指導の過程（学習指導要領解説）				
第4回：中学校数学科（数と式、図形）の学習評価				
第5回：数学的活動とは何かを考える（グループ討論）				
第6回：数学的な思考力・数学的な表現力とは何かを考える（グループ討論）				
第7回：数学的な思考力・表現力の育成の具体化（グループワーク）				
第8回：中学校数学科の学習内容（数と式、図形）				
第9回：数学授業（数と式）の指導内容・指導上の留意点				
第10回：数学授業（数と式）の授業分析（模擬授業後とグループ討論）				
第11回：数学授業（図形）の指導内容・指導上の留意点				

第12回：数学授業（図形）の授業分析（模擬授業とグループ討論）

第13回：ICTを活用した中学校数学科の内容（数と式、図形）の展開

第14回：「主体的、対話的で深い学び」の実現のための指導方法の工夫①
（問題解決場面の検討、学習課題の設定）

第15回：「主体的、対話的で深い学び」の実現のための指導方法の工夫②
（板書の工夫、授業の振り返り、学習評価）

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」日本文教出版

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」日本文教出版

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編」学校図書

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

試験（40％）模擬授業（40％）小レポート・演習（20％）

授業科目名： 数学科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹村 景生
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
○授業のテーマ			
数学教育の基礎知識、数学の授業づくりの基本を学び、将来中学校教員、高等学校教員として数学を指導するにあたっての実践力を養う。			
○授業の到達目標			
1) 中学校・高等学校数学科の目標、内容（主に、関数、データの活用）及び指導方法に関する基礎的な知識を獲得する。			
2) 中学校・高等学校数学科の内容やその指導方法への関心・意欲を高め、授業実践に活かそうとする。			
3) 中学校・高等学校数学科の指導内容を踏まえ、教材のもつ数学的な背景や教育的意義について考察することができる。			
4) 数学の指導案や授業展開の仕組みなど、数学の指導法の基礎について理解することができる。			
授業の概要			
中学校・高等学校数学科の目標と学習内容（主に、関数、データの活用）をはじめ、数学の学習指導の過程、学習評価の考え方など、数学の授業をつくる上での基礎を学ぶとともに、数学科教員として必要な基本的な資質・能力を習得する。			
授業計画			
第1回：算数と数学の異同、中学校・高等学校数学科の目標			
第2回：日本の中学生の実態（関数、データの活用）（全国学力・学習状況調査など）			
第3回：中学校数学科（関数、データの活用）の学習評価			
第4回：中学校数学科における教材研究のあり方			
第5回：数学授業における情報機器の活用			
第6回：中学校数学科の学習内容（関数）			
第7回：数学授業（関数）の指導内容・指導上の留意点			
第8回：数学授業（関数）の授業分析（模擬授業後とグループ討論）			
第9回：中学校数学科の学習内容（データの活用（確率・統計））			
第10回：数学授業（データの活用（確率・統計））の指導内容・指導上の留意点			

第11回：数学授業（統計）の授業分析（模擬授業後とグループ討論）

第12回：数学授業（確率）の授業分析（模擬授業後とグループ討論）

第13回：中学校数学科の内容（関数、データの活用）の展開（ICT等の活用含む）

第14回：「主体的、対話的で深い学び」の実現のための指導方法の工夫①

（問題場解決面の検討、学習課題の設定

第15回：「主体的、対話的で深い学び」の実現のための指導方法の工夫②

（板書の工夫、授業の振り返り、学習評価）

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」日本文教出版

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」日本文教出版

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編」学校図書

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

試験（40％）模擬授業（40％）小レポート・演習（20％）

授業科目名： 数学科教育法Ⅲ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹村 景生
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
○授業のテーマ				
この授業の目的は、算数・数学科の学習指導を通して育成を目指す資質・能力についての理解を深めるとともに、中等段階における学習指導上の諸問題を踏まえて、教材の工夫、授業展開や学習活動の工夫、指導や評価の工夫等についての識見を深めることである。				
○授業の到達目標				
算数・数学の学習指導を通して育成を目指す資質・能力について理解を深める。				
算数・数学の学習指導上の諸問題を踏まえて、教材の工夫、授業展開や学習活動の工夫、指導や評価の工夫について理解を深める。				
小学校・中学校・高等学校の算数・数学の授業の在り方についての理解を深める。				
授業の概要				
全国学力・学習状況調査、高等学校教育課程実施状況調査の問題を素材に、「数学のプロセス」を重視した授業を、グループで協働してデザインし、模擬授業を行う。模擬授業へ向けて、各グループの指導案について協議する。模擬授業の指導案を作成する過程をリフレクションして、算数・数学の授業の在り方について考察する。また、身近なところから素材を求めて、教材化し、授業をどのようにデザインするか、豊かで柔軟な数学観を醸成する。				
授業計画				
第1回：全国規模の各種調査等から見える小学生、中学生、高校生の算数・数学に関する実態				
第2回：小学校算数の問題と結果（プレゼン）（主に、全国学力・学習状況調査）				
第3回：中学校数学の問題と結果（プレゼン）（主に、全国学力・学習状況調査）				
第4回：高等学校数学の問題と結果（プレゼン）（主に、高等学校教育課程実施状況調査の問題）				
第5回：指導案検討（小学校算数）（授業の課題設定）				
第6回：指導案検討（中学校数学）（授業の課題設定）				
第7回：指導案検討（高等学校数学）（授業課題設定）				
第8回：指導案検討（小学校算数）（授業の導入・展開・まとめについて）				
第9回：指導案検討（中学校数学）（授業の導入・展開・まとめについて）				
第10回：指導案検討（高等学校数学）（授業の導入・展開・まとめについて）				
第11回：指導案検討（小学校算数・中学校数学・高等学校数学）（まとめと学習評価について）				

第12回：教材開発と授業デザイン1 理論編

第13回：教材開発と授業デザイン2 実習編

第14回：教材開発と授業デザイン3 (ICTの活用を含む) 実習編

第15回：教材開発と授業デザイン4 検討会

定期試験

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」日本文教出版

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」日本文教出版

文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編」学校図書

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

試験（40％）模擬授業（40％）小レポート・演習（20％）

授業科目名： 数学科教育法Ⅳ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西仲（本田） 則博
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
本科目は中学校および高等学校数学科の学習指導要領にもとづき、数学教育についての理念や現状と課題を理解し、指導法に関する資質を高めることを趣旨としています。 数学の指導に関する実践力の向上を目指し、中学校・高等学校数学科の複数の単元にまたがる教材の研究を行い、指導方法を考察します。さらに模擬授業（ICTを用いた授業も含む）とその分析を行い、数学科の指導法に関する実践力の向上を目指します。				
授業の概要				
中学校、高等学校の数学の授業（ICTを用いるを含む）の授業分析を行う。 全国学力学習状況調査の中学校数学の授業アイデアを基にした授業力の育成を行います。 関数領域やデータ活用領域での模擬授業では、ICTを用いる授業を構築し、その実践力を養います。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：数学の授業の科学1（国際比較調査から学ぶ）				
第3回：数学の授業の科学2（授業観察から学ぶ）				
第4回：数学の授業の科学3（中学校での授業実践例から学ぶ）				
第5回：数学の授業の科学4（高等学校での授業実践例から学ぶ）				
第6回：数学の授業の科学5（ICTを用いた授業実践例から学ぶ）				
第7回：大規模調査にみる数学教育の現状と課題1（PISA、IEA、国学力・学習状況調査）				
第8回：大規模調査にみる数学教育の現状と課題2（全国学力・学習状況調査の経年研究）				
第9回：大規模調査にみる数学教育の現状と課題3（全国学力・学習状況調査の授業アイデア例）				
第10回：大規模調査にみる数学教育の現状と課題4（数と式、関数）				
第11回：大規模調査にみる数学教育の現状と課題5（図形、資料の活用）				
第12回：生徒の学力分析と授業1（高等学校数学1（数と式））				
第13回：生徒の学力分析と授業2（高等学校数学1（図形と計量））				
第14回：生徒の学力分析と授業1（ICTを用いた高等学校数学1（二次関数））				
第15回：生徒の学力分析と授業2（ICTを用いた高等学校数学1（データの分析））				
テキスト				

資料を配付する（別途指示する場合もある）

参考書・参考資料等

「授業を科学する―数学の授業への新しいアプローチ」清水美憲編著（学文社）2010

「言語活動の充実に関する指導事例集：思考力、判断力、表現力等の育成に向けて 中学校版」
文部科学省（教育出版）2012

「言語活動の充実に関する指導事例集：思考力、判断力、表現力等の育成に向けて 高等学校
版」文部科学省（教育出版）2014

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」文部科学省（日本文教出版）2018

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編・理数編」文部科学省（学校図書）2019

「数学教育の理論と実際 中学校・高等学校(必修)」数学教育研究会（聖文新社）2010

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」文部科学省（日本文教出版）2018

「高等学校新学習指導要領の展開 数学科編」吉田明史（明治図書出版）2010

学生に対する評価

毎回の課題レポート 25%

教材研究・模擬授業など 50%

期末レポート 25%

授業科目名： 仏教と教育（中・高）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：四方 保仁
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 大谷大学で教員免許を取得することの意義を理解する。大谷大学生としての教師像を構築する。現代社会に最も必要な教育について考える。現代社会における教育の在り方を、生徒を一人の人間として尊重する観点から考察する。			
授業の概要 人間教育というものの本質を考える。そのためには、まず自分自身が教育者として相応しい人間になることが必要である。したがって、この講義では、そのことを理解することを目的とする。			
授業計画 第1回：教育とは何か 第2回：教育における仏教の果たす役割 第3回：現代の教育のかかえている課題（1）子ども観 第4回：現代の教育のかかえている課題（2）教師観 第5回：教育観の構築（1）人間教育の本来性 第6回：教育観の構築（2）人間教育のあり方 第7回：宗教教育の具現化（1）教育者としての意欲の根源 第8回：宗教教育の具現化（2）教育者として子供と向き合う姿勢 第9回：目指すべき教師像（1）清沢満之 第10回：目指すべき教師像（2）沢柳政太郎 第11回：目指すべき教師像（3）広小路亨 第12回：戦後の宗教教育「観」 第13回：大谷大学から教師になる学生に対する願い 第14回：教師を職業として選ぶということについて（まとめ） 第15回：外部講師による講演 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等			

『加齢のこみちで』 広小路亨

学生に対する評価

教師としての姿勢を重んずる。

平常点（50％）、定期試験（50％）にて評価する。

授業科目名： 仏教と教育（初等）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：富岡 量秀
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
①大谷大学が教員を養成する意義：教育における豊かな宗教的情操の育ちの意義を学び、本務遂行、相互敬愛、人格純真という大谷大学の教育の理念の真意を理解し、そして教師に成り続ける姿勢を身につける。			
②大谷大学生としての教師像：教師自身が「本務遂行（深い学び）・相互敬愛（協同的な学び）・人格純真（主体的な学び）」の実践者と成り、子どもの心に寄り添い、子どもの目線で物事を考え、生きることの喜びを他者と共有する心を子どもたちへ受け継いでいく「教師」と成ることを基軸として、一人ひとりが自身の「教師像」を探究する。			
③子どもの「深い学び」、「協同的な学び」、「主体的な学び」（アクティブラーニング）と「仏教における宗教教育」との関係性という視点から、現代社会に最も必要な「教育」について、学校教育の抱える課題と歴史的背景を踏まえて考える力を身につける。			
授業の概要			
本学の学びの特徴である仏教に立脚した教育への学びから、自身の「教育観」を主体的に構築する力を養う。具体的な「教師」モデルの教育観と実践内容、教師としての姿勢と役割についての学びなどから、適宜グループワーク等を行い、対話的な学びから、深い学びへと展開する。そして本学の目指す教師の資質と願いを学びの指標としながら、一人ひとりが自己省察を通して主体的に「教師」に成る意義を確認し、子どもたちと「ともに生き・ともに育ち合う教育実践者」に成り続ける姿勢を身につける。			
授業計画			
第1回：仏教における宗教教育と近代教育機関への展開			
第2回：教育的課題としての「いのちの尊厳性」			
第3回：教育的課題としての「生きる力」の獲得			
第4回：科学的な知と宗教的な知との関係性			
第5回：「仏教精神」に立脚した幼児期から小学校まで連続した教育実践「真宗保育」			
第6回：潜在的カリキュラムとしての教師の資質			
第7回：清沢満之の教育観とその実践			
第8回：沢柳政太郎の教育観とその実践			
第9回：広小路亨の教育観とその実践			

第10回：本務遂行の意欲が生み出す「深い学び」 第11回：相互敬愛の態度が生み出す「協同的な学び」 第12回：人格純真の心情が生み出す「主体的な学び」 第13回：人間教育の本質を実践する教師に成る・成り続ける 第14回：ともに生き・ともに育ち合う教育実践 第15回：幼児教育から小学校以上への「育ちと学びのシークエンス」
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領・解説（最新版） 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と各解説書（最新版） 富岡量秀著『真宗保育をデザインする』（公益社団法人 大谷保育協会） 他
学生に対する評価 ・授業への取り組み姿勢等（30％） ・ミニツツペーパーの内容（20％） ・定期試験レポート（50％）

授業科目名： 防災・安全教育（初等）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林 正幸 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 喫緊の課題である学校運営・学級運営に関する防災・危機管理や、子どもに対して行う防災教育・安全教育の必要性を知り、実際の学校現場において対応できる方法を身に付ける。			
授業の概要 本講義は、喫緊の課題である学校運営・学級運営に関する防災・危機管理などの内容と子どもに対して行う防災教育・安全教育などの内容から構成される。 火災、地震などの災害の予防及び防災計画の作成、防災管理委員会の設置などの組織的な対応と「大震災時における実際に対応事例」から、子どもの安全確保、引き渡し、安否確認の仕方、避難所の開設や運営の仕方を学ぶ。 また、日常の安全点検や避難訓練により災害時に安全に避難できる態度や能力を体得する子どもを育成する防災・安全教育について実践的に理解を深める。			
授業計画 第1回：学校安全計画の作成 第2回：日常の安全点検と管理 第3回：教科等における安全学習 第4回：学級活動における安全指導 第5回：学校行事における安全指導 第6回：不審者侵入防止に関する安全管理 第7回：通学時の安全管理 第8回：防災計画の作成 第9回：防災管理委員会の設置 第10回：避難訓練の効果的なあり方 第11回：災害発生時のリスクマネジメント 第12回：災害発生時における対応 第13回：避難所としての学校の役割 第14回：災害発生時における心のケア・授業再開に向けて 第15回：地域と連携した防災教育 定期試験			

テキスト

文部科学省，学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（東京書籍）

参考書・参考資料等

授業時に参考資料を配付する。

学生に対する評価

授業への参加度およびレポート40%，筆記試験60%

授業科目名： 教室の心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮原（大森） 道子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
【教室という場の理解】			
物理的空間としての教室、児童生徒を取り巻く環境としての教室、一つの社会としての教室 それぞれの特徴や構成要因について基本的な知識を身につける。さらに、教室という場が児童 生徒に及ぼす心理的影響についても理解を深める。			
授業の概要			
「教室」は授業を受ける場所であることは言うまでもないが、それだけではなく、さまざまな 人間関係の場でもある。教師と生徒、生徒と生徒、グループとグループ、個人とグループなど の間に展開される関係は、諸々の条件により日々流動する。教師として教室に関わる場合には 、子ども一人一人を見ると同時に、他の子どもとの関係や教室全体を見ていくことが求められ る。本講義では、授業だけではなく、教室の内外の人間関係や教室が学びに及ぼす効果や影響 について、心理学的にとらえることを目指す。			
授業計画			
第1回：教室という空間1（視覚刺激の存在）			
第2回：教室という空間2（聴覚刺激の存在）			
第3回：教室という社会（他者の存在，友人関係）			
第4回：教室の社会規範			
第5回：対人関係の適応			
第6回：教室における社会的迷惑行為			
第7回：自己と社会的迷惑行為			
第8回：授業中の私語の影響と役割			
第9回：自己認知とは			
第10回：自己認知の一貫性			
第11回：環境が記憶に及ぼす影響			
第12回：環境が文章理解に及ぼす影響			
第13回：騒音感受性の個人差			
第14回：環境への感受性とその個人差			
第15回：プライベート空間への志向性			

定期試験
テキスト 特に指定せず，毎回ハンドアウトを配布する。講義形式の授業であるが，内容の理解を深めるために，学生自身による心理学的スキルの体験や，関連する映像の視聴も行う。
参考書・参考資料等 『教室で学ぶ「社会の中の人間行動」』吉田俊和，廣岡秀一，斎藤和志編著（2002） 明治図書出版
学生に対する評価 定期試験（筆記試験）85%と，毎回の授業時のコメントカードの提出15%とで総合的に評価する。

授業科目名： 授業心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮原（大森） 道子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 【授業過程に関わる心理学】 児童生徒が授業内容を理解する上で必要となる認知活動について、基本的な知識を学ぶ。さらに、心の仕組みの発達的变化や支援のあり方についても学び、教員として授業を行う際にこれらの知識を役立たせることを目的とする。			
授業の概要 授業とは、教育の場であると同時に、きわめて重要な人間関係の場でもあり、そこにはさまざまな心理学的な要因が関係している。授業は、子どもの知的な発達段階だけでなく、その年代特有のこころのあり方も考慮しなければ、うまく進めることはできない。さらに一人ひとりの児童の個性や動機づけに応じて、工夫する必要もある。授業をするとはどういうことか。授業において教師に求められることは何か。本講義では、授業を行う側が考えなければならないことについて心理学の立場から考えていく。			
授業計画 第1回：授業に関わる認知活動とは 第2回：感覚と知覚を使う（視覚と聴覚） 第3回：注意のしくみと子どもの注意 第4回：注意のコントロール 第5回：子どもの記憶の特徴 第6回：ワーキングメモリのしくみ 第7回：ワーキングメモリと学業 第8回：ワーキングメモリの向上と支援 第9回：長期記憶の分類（意味記憶，エピソード記憶，手続き記憶） 第10回：長期記憶のしくみ 第11回：メタ認知の発達と個人差 第12回：日常認知とは 第13回：文章理解のしくみ 第14回：文章理解の指導 第15回：認知活動の個人差			

定期試験
テキスト 特に指定せず，毎回ハンドアウトを配布する。講義形式の授業であるが，内容の理解を深めるために，学生自身による心理学的スキルの体験や，関連する映像の視聴も行う。
参考書・参考資料等 『認知心理学から見た授業過程の理解』多鹿秀継 編著（1999）北大路書房 『授業の心理学 認知心理学から見た教育方法論』栗山和広 編著（2014）福村出版
学生に対する評価 定期試験（筆記試験）85%と，毎回の授業時のコメントカードの提出15%とで総合的に評価する。

授業科目名： 探求ゼミ（算数・数学） I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：源嶋 孝太 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）数学的思考法への手引き （到達目標）（１）小学校算数科、中学校数学科の学習内容について、その概要と意味を理解している。（２）当たり前に見えるようなことでも、それがなぜ成立するのかを論理的に筋道立てて説明できる。（３）各指導内容の指導上のポイントを理解している。（４）明確な指導目標を持ち、より体系的な教材研究を行うことができる。			
授業の概要 この講義では、小学校算数・中学校数学の話題に関連した証明問題を通して、各学習内容の意味や数学的背景、および学習内容全体のつながりについて理解を深めながら、数学という言葉を学ぶために必要となる基本的な文法とテクニックを学ぶ。そして、将来様々な場面で活用できる、数学的思考法と、考えたことを人に伝えるための表現力の獲得を目指す。なにより「あれ！もしかして！」という直感と、計算や観察、実験などの数学的活動を通して証明を組み立てていく楽しさを知り、授業者として算数・数学への理解を深めることを目的とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス（命題と証明） 第2回：定義と数学用語について 第3回：前進後退法 第4回：存在量化詞（「ある～が存在する」の使い方） 第5回：全称量化詞（「すべての～に対して」の使い方） 第6回：全称量化詞を含む命題の特殊化 第7回：複数の量化詞を含む命題 第8回：命題の否定について 第9回：背理法 第10回：対偶法 第11回：一意性の証明法 第12回：数学的帰納法 第13回：模擬授業と検討会1（教材研究・準備） 第14回：模擬授業と検討会2（実践）			

第15回：模擬授業と検討会3（模擬授業の振り返りと検討会）

定期試験

テキスト

指定テキストなし。授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

Daniel Solow（著）、西村康一・服部久美子（訳）

「証明の読み方・考え方〔原著第6版〕：数学的思考過程への手引き」 共立出版

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」

学生に対する評価

模擬授業（30%）、授業への参加意欲（20%）、定期試験（50%）

授業科目名： 探求ゼミ（算数・数学） II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：源嶋 孝太 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）算数・数学教材の背景と応用 （到達目標）（１）小学校学習指導要領の算数科の学習内容について、その概要と意味を理解している。（２）算数科の学習内容の数学的背景について理解している。（３）学習者の視点に立ち、教材を分析することができる。			
授業の概要 子どもの「なぜ？」という問いかけは好奇心の表れであり、子どもの才能を伸ばす貴重な学習機会である。そのような子どもの問いかけを深く掘り下げ、子どもの興味・関心を育むために小学校教員に求められる能力（小中連携を意識した中学校教員としての視点を含む）について考える。 算数教育において、子どもの素朴な問いを肯定的に受け止めて育てる指導は、数学的背景を踏まえた深い教材研究の上で成り立つ。また、子どもたちが算数授業で見せる多様な記述や発想を柔軟に認め、個性を尊重するには、より高い視点から問題をとらえることのできる数学的素養が必要となる。 この講義では、小学校算数科の学習内容について、その数学的な背景を学び、子どもの素朴な疑問を生かした教材研究・開発を行うために必要な教養と技能、広い数学的視野の獲得を目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス（算数指導における数学的背景の必要性） 第2回：「数と計算」領域の背景と応用1（基礎理論） 第3回：「数と計算」領域の背景と応用2（演習） 第4回：「数と計算」領域の背景と応用3（解説） 第5回：「測定」、「図形」領域の背景と応用1（基礎理論） 第6回：「測定」、「図形」領域の背景と応用2（演習） 第7回：「測定」、「図形」領域の背景と応用3（解説） 第8回：「変化と関係」領域の背景と応用1（基礎理論） 第9回：「変化と関係」領域の背景と応用2（演習） 第10回：「変化と関係」領域の背景と応用3（解説）			

第11回：「データの活用」領域の背景と応用1（基礎理論）

第12回：「データの活用」領域の背景と応用2（演習・解説）

第13回：模擬授業と検討会1（教材研究・準備）

第14回：模擬授業と検討会2（実践）

第15回：模擬授業と検討会3（模擬授業の振り返りと検討会）

テキスト

指定テキストなし。授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

斎藤 昇・小原 豊「深い学びを支える算数教科書の数学的背景」東洋館出版社

文部科学省「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）算数編」

学生に対する評価

模擬授業（30%）、授業への参加意欲（20%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 探求ゼミ（算数・数学） Ⅲ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：安部 哲哉 担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) アクティブ・ラーニングのための算数・数学科の発問の探求 本講義では、アクティブ・ラーニングという新しい教育思想を概観し、この思想に込められた教育観に基づく具体的な授業の構想を通して、アクティブ・ラーニングという教育思想に基づく算数・数学科の発問の在り方を探求することを目標とする。 (到達目標) ① 学びたいという心と思考をアクティブにするのは教員による発問であることを理解する。 ② アクティブ・ラーニングに基づく算数・数学科の授業における発問のあり方について理解する。				
授業の概要 授業でアクティブにしたいものは、子どもたちのもっと学びたいという心と思考である。学びたいという心と思考をアクティブにするのは教員による発問である。教員がその瞬間、瞬間においていかに最適な問いを発するかということが、子どもたちの思考を高め、授業の質を高めることになる。発問は子どもの心を学習へと開くものでなければならない。本講義では、よい授業を行う上で大切な発問というコミュニケーション能力は深い教材研究からもたらされる能力であるという教育観に基づき、算数・数学科の授業における発問のあり方について探求する。				
授業計画 第1回：アクティブ・ラーニング（1）アクティブ・ラーニングという教育思想 第2回：アクティブ・ラーニング（2）教師の問いが深い思考を導く 第3回：アクティブ・ラーニング（3）発問という数学的コミュニケーション能力 第4回：算数・数学の授業における発問を考える（1）なぜ3人寄れば文殊の知恵なのか 第5回：算数・数学の授業における発問を考える（2）「たぶん、～じゃない」という蓋然的推論 第6回：算数・数学の授業における発問を考える（3）教員のフィードバックは何をもたらすか 第7回：算数・数学の授業における発問を考える（4）認知的不協和状態の変容 第8回：算数・数学の授業におけるコミュニケーションを観察する：発問と教材研究の関係 第9回：どんなコミュニケーションが起きていたのか：コミュニケーションの創発性 第10回：算数・数学の授業におけるコミュニケーションを考えよう：学習者間の思考の連続性 第11回：一方的なコミュニケーションにならないために：初発問と発問の連鎖 第12回：算数・数学の模擬授業（1）他者の発言を理解するために何が必要か（協応連鎖）				

第13回：算数・数学の模擬授業（2）「ああ、わかった、なるほどね」（共鳴連鎖・超越連鎖）

第14回：3人寄れば文殊の知恵の事例を分析しよう：反省的思考と反照的思考

第15回：事例分析を発表しよう：仮説形成と発見のメカニズム（創発連鎖）

テキスト

江森英世(2012). 算数・数学授業のための数学的コミュニケーション論序説. 明治図書.

参考書・参考資料等

文部科学省(2018). 小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編. 日本文教出版.

文部科学省(2018). 中学校学習指導要領解説(平成29年告示)数学編. 日本文教出版.

文部科学省(2019). 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編 理数編. 学校図書.

江森英世(2016). アクティブ・ラーニングのための算数教材研究. 明治図書.

学生に対する評価

授業への参加意欲（40%）、模擬授業（30%）、授業内試験（20%）、レポート（10%）

授業科目名： 部落史論1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮前 千雅子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
被差別部落の歴史を通して、日本社会を深く理解する。			
・ 部落差別の特質を理解し、現代社会における課題と関連づけて考えることができる。			
・ 部落差別はどのようにして起こったのか、そしてその後どのような経緯をたどったのか、理解できる。			
・ 差別を肯定し助長しかねない動きと、それに対抗する批判的な動きの存在を認識し、自分自身の立場を確立する。			
授業の概要			
本講義では、被差別部落の歴史について、とくに前近代に焦点を絞り考えていく。部落問題は日本社会の在り様に深く根ざした社会問題であり、被差別部落の歴史を知ることは、日本社会の課題を深く探ることにつながる。部落差別はいかにして生まれ、悪質化したのか？そして、なぜ、今も部落差別は存在し続けるのか？受講生とともに議論し、学びあっていく。			
授業計画			
第1回：なぜ部落の歴史を学ぶのか-自分の立ち位置とともに			
第2回：部落差別とは何か？			
第3回：討論-「寝た子を起こすな」を考えよう			
第4回：部落差別の本質とは？			
第5回：部落の起源について			
第6回：中世の部落の姿			
第7回：ハンセン病問題と部落差別			
第8回：戦国時代の変化			
第9回：江戸時代における差別の制度化			
第10回：差別のゆるみと民衆			
第11回：差別制度の強化と崩壊			
第12回：賤民制度の廃止			
第13回：近代社会と部落差別			
第14回：まとめ（前近代の部落の歴史）			
第15回：試験と解説			

テキスト

上杉聡『これでわかった！部落の歴史』（解放出版社、2004年12月）

参考書・参考資料等

石元清英ほか『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（ひょうご部落解放・人権研究所、2017年）

学生に対する評価

受講態度（50％）、授業内試験（50％）

授業科目名： 部落史論2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮前 千雅子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
近現代日本社会における被差別部落の歴史を理解する。 ・ 部落差別が明治以降も残された理由を、法令（賤民廃止令）の不十分さと近代社会全体との関係から理解する。 ・ 差別を克服しようとする動きがどのようにして生まれ、また壁に直面したかを、資料に即して理解する。 ・ 戦後は差別を克服する条件がいかに形成されたか、それを今後どのように活用していくかについて、考え方を確立する。			
授業の概要			
本講義は、明治維新から現代までの部落の歴史を明らかにし、差別の根本的な解決を目指す。なぜ部落差別が今もあるのか、その理由を追究することは、近代日本社会に内包する諸課題を明らかにすることでもある。また京都市内の被差別部落へのフィールド・ワークを実施し、研究と体験を踏まえ、差別が存在してき歴史と社会を根底から見直す視点を確立する。			
授業計画			
第1回：部落差別は今もあるのか？			
第2回：前近代の差別の歴史			
第3回：賤民廃止令は「差別までなくすつもりはなかった」			
第4回：部落差別を近代に残した社会構造について			
第5回：部落解放反対騒擾はなぜ起こったのか			
第6回：旧「非人」部落・旧「穢多」部落のゆくえと近代社会			
第7回：映像でみる部落問題			
第8回：近代におけるハンセン病問題と部落差別			
第9回：戦前の「家」制度と部落差別			
第10回：水平社はかくして生まれた			
第11回：戦争と差別、新憲法			
第12回：同和施策の進展、今後の課題			
第13回：フィールド・ワークについての事前授業			
第14回：フィールド・ワークの事後授業			

第15回：試験と解説
テキスト
上杉聡『これでなっとく！部落の歴史』（解放出版社、2010年）
参考書・参考資料等
石元清英ほか『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（ひょうご部落解放・人権研究所、2017年）
学生に対する評価
受講態度（50％）授業内試験（50％）

授業科目名： 反カースト運動論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： Dash Shobha Rani
				担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
釈尊の生きた時代から現代のインドまで続くカースト（ヴァルナ体制・不可触民制）について学び、仏教の視点からその問題を捉え、人権・差別・平等について考える。そして、次のことを到達目標とする。①インドのカーストについての基礎的知識を身につける。②アンベードカルやガンディーについての基礎的知識を身につける。③差別の問題について考える力を養う。				
授業の概要				
1. カースト制度と呼ばれてきたものとは何かについて学ぶ。				
2. ヴァルナ体制・不可触民制に対して仏教が持つ視点を確認する。				
3. カーストからの解放を求めて仏教に改宗したアンベードカルとインド独立の父とも称されるガンディーについて学ぶ。				
4. 1～3で学んだことを踏まえて仏教の視点から〈共に生きる〉ことについて考える。				
授業計画				
第1回：イントロダクション、インドの外観				
第2回：インドの宗教				
第3回：インドの生活文化				
第4回：カーストとは何か（ヴァルナ体制とジャーティ制度）				
第5回：カーストとは何か（不可触民）				
第6回：ガンディーの活動				
第7回：アンベードカルの活動（不可触民解放運動）				
第8回：ガンディーとアンベードカルの対立				
第9回：アンベードカルと仏教				
第10回：「人権問題を共に考えよう」全学学習会（水曜日18時開始の講演会に参加）				
第11回：独立後インド憲法とカースト				
第12回：カーストと留保制度				
第13回：差別と仏教（初期経典における用例の検討）				
第14回：仏教の人間観				
第15回：仏教の視点からみた差別の問題				
定期試験				

テキスト 担当者が準備する。
参考書・参考資料等 授業中に指示する。
学生に対する評価 筆記試験による評価（70%）出席、授業参加、授業態度、課題提出などの総合評価（30%）

授業科目名： 障害者・病者と共に生きる	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：訓覇 浩
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ハンセン病問題から問われる、国、社会、そして私 「差別・被差別」からの解放			
到達目標：授業の中心に据えるハンセン病問題への学びをとおして、私たち一人ひとりの中にある「差別心」「排除心」がもたらす現実と、社会、国のありようを直視し、その中であって、差別、排除と闘ってきた人たちの姿に向き合い、差別を見抜き、差別を許さない世界を希求する力を身につけていくことを授業の目標とする			
授業の概要			
・ハンセン病問題に向き合い、近現代日本の絶対隔離政策の実際とその背景について学び、ハンセン病問題が現在進行形の問題であることを確認する ・厳しい隔離と差別の中で人間回復の闘いを続けてきた人たちの運動の歴史と現在、解放への願いについて向き合い、差別を悲しむ力、差別のない世界を希求する力を身につける。 ・特に、ハンセン病家族訴訟とその判決、その後の取り組みの中で大きな課題となっている、「教育」「啓発」の在り方について、積極的に問題意識を共有し、授業に反映さす。 ・ゲストとしてハンセン病回復者の方に出講してもらい、出会いと対話の中でハンセン病問題についての認識を深める。 ・それらのことをとおし、ハンセン病問題を人権教育の課題として受け止め、「障害者」「病者」と共に生きるということを自身の上に確かめる。			
授業計画			
第1回：はじめに ハンセン病問題とは何か ハンセン病問題に学ぶことの意義の確認			
第2回：ハンセン病隔離政策がもたらした差別、被害（1） ハンセン病療養所入所者に対する差別、被害			
第3回：ハンセン病隔離政策がもたらした差別、被害（2） ハンセン病療養所退所者、遺族・家族に対する差別、被害の現実			
第4回：ハンセン病絶対隔離政策の歴史（1）絶対隔離政策のはじまり			
第5回：ハンセン病絶対隔離政策の歴史（2） 今日まで続いた絶対隔離政策市民の差別意識「無らい県運動」を中心として			
第6回：ハンセン病絶対隔離政策の歴史（3）前近代のハンセン病問題 ハンセン病観の変遷			
第7回：ハンセン病絶対隔離政策の歴史（4）宗教と皇室がもたらした被害 中間総括			

第8回：ハンセン病問題と他の差別問題との重なり アイヌ民族に対する同化政策への注目

第9回：隔離との闘い（1）ハンセン病療養所入所者の闘い

第10回：隔離との闘い（2）退所者、家族、市民の闘い

第11回：ハンセン病問題をめぐる今日的課題（1）現在進行形としてのハンセン病差別

第12回：ハンセン病問題をめぐる今日的課題（2）ハンセン病療養所の明日について

第13回：ハンセン病回復者との出会いをとおして ゲストを招いての学習

第14回：わたしの課題として（1）ハンセン病問題に問われる国家・社会・自己

第15回：わたしの課題として（2）人権教育の課題としてのハンセン病問題

定期試験

テキスト

真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会（編）

『いま、共なる歩みを ハンセン病回復者との出会いの中で』（東本願寺出版）

参考書・参考資料等

無らい県運動研究会（編）『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会 無らい県運動の研究』（六花出版）

大野哲夫 花田昌宣 山本尚友（編）『ハンセン病講義 学生に語りかけるハンセン病』（現代書館）

荒井英子『ハンセン病とキリスト教』（岩波書店）

山下多恵子 『増補新版 海の蠍 明石海人と島比呂志 ハンセン病文学の系譜』（未知谷）

ハンセン病家族訴訟弁護団（編）『家族がハンセン病だった』（六花出版）

学生に対する評価

平常点として、授業への出席態度（10%）を評価の対象とする。定期試験として、授業をとおして各自が受けとめた課題を、自らの言葉で表現してもらうための定期試験時の筆記もしくはレポート試験を実施し評価する（65%）。授業時間内に作成するものも含め、2、3回の小レポートの提出を求め、その内容を評価の対象とする（25%）。

授業科目名： アイヌ民族と共に		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：訓覇 浩
				担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：差異（ちがい）を認め合う世界を願って アイヌ民族問題に照らされる社会そして自己 到達目標：アイヌ民族に対する「同化政策」の歴史を学び、同化政策に抗ってきた人たちの姿 に向き合い、差異（ちがい）をみとめる世界の大切さを理解し、アイヌ民族として現在を生き る人たちと共感し、差別を悲しむ力、差別のない世界、共生の世界を希求する力を身につける。				
授業の概要				
・アイヌ民族の存在を認識し、アイヌ民族の持つ独自の文化、宗教、自然観等について学ぶ。 ・前近代における「蝦夷」と「和人」の関係、近代におけるアイヌ民族に対する「同化政策」の歴史と現代におけるアイヌ民族が置かれている状況について学ぶ。 ・同化政策に抗ってきた人たちの姿に向き合い、共感し、差別と闘うことの尊さとその成果について学ぶ。 ・沖縄問題を取り上げ、アイヌ民族問題と照らし合わせることで、浮かび上がる課題について確かめる。 ・優生思想という、アイヌ民族問題と同根の課題をもつハンセン病問題を取り上げ、アイヌ民族問題と照らし合わせることで、浮かび上がる課題について確かめる。 ・それらをとおして差異(ちがい)を認め、差異を尊重できるあり方について考え、人権教育の課題として受け止める。				
授業計画				
第1回：はじめに アイヌ民族問題とは何か アイヌ民族問題に学ぶことの意義の確認				
第2回：先住民族としてのアイヌ民族				
第3回：アイヌ民族の文化				
第4回：近代国家の形成とアイヌ民族（1） 近代国家の形成 江戸から明治へ				
第5回：近代国家の形成とアイヌ民族（2） 北海道拓殖政策の始まりと同化政策				
第6回：近代国家の形成とアイヌ民族（3） 同化政策がアイヌ民族から奪ったもの				
第7回：近代以前のアイヌ民族 異域としての「蝦夷地」				
第8回：アイヌ民族問題と沖縄問題（1） 沖縄問題概観				
第9回：アイヌ民族問題と沖縄問題（2） アイヌ民族問題との照らし合い				
第10回：アイヌ民族問題とハンセン病問題 ハンセン病問題概観 アイヌ民族問題との照らし合い				
第11回：同化との闘いの歴史と現在（1）前近代の闘い				
第12回：同化との闘いの歴史と現在（2）近代の闘い				

第13回：同化との闘いの歴史と現在（3）現代の闘い・取り組み

第14回：同化との闘いの歴史と現在（4）今後の取り組み・課題

第15回：自らの課題として 人権教育として向き合うアイヌ民族問題

定期試験

テキスト

真宗大谷派解放運動推進本部（編）『共なる世界を願って アイヌ民族差別に関する学習資料集』
東本願寺出版

参考書・参考資料等

真宗大谷派（編）『響 いのちのひびき ことばのひびき』 東本願寺出版

学生に対する評価

平常点として、授業への出席態度（10%）を評価の対象とする。定期試験として、授業をとおして各自が受けとめた課題を、自らの言葉で表現してもらうための定期試験時の筆記もしくはレポート試験を実施し評価する（65%）。授業時間内に作成するものも含め、2、3回の小レポートの提出を求め、その内容を評価の対象とする（25%）。

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目（中） 選択科目（高）	単位数： 2単位	担当教員名：寺川 直樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校 数学） 大学が独自に設定する科目（高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：道徳教育・道徳科の理念と実践 到達目標：①道徳教育の基礎知識を習得する。 ②現在の道徳教育と道徳科のあり方について説明することができる。 ③道徳科の指導法を学び、それをふまえて学習指導案を作成し模擬授業を実施することができる。			
授業の概要 本演習では、①道徳教育の基礎知識や、②現在の道徳教育と道徳科のあり方、③道徳教育と道徳科の指導法について、講義・ディスカッション・指導案作成・模擬授業を通じて理解するとともに実践する力を養う。具体的には、日本における道徳教育の歴史や現在の道徳教育観の要点、道徳性の発達理論について理解し、道徳科の指導内容、現代的課題と道徳教育との関係について知った上で、学習指導案を実際に作成し模擬授業に取り組む。			
授業計画 第1回：日本人の伝統的な道徳（教育）観 第2回：近現代の日本にみる道徳教育の歩み 第3回：道徳性の発達理論 第4回：「特別の教科 道徳」の教育観 第5回：道徳科の指導内容（1）A 主として自分自身に関すること 第6回：道徳科の指導内容（2）B 主として人との関わりに関すること 第7回：道徳科の指導内容（3）C 主として集団や社会との関わりに関すること 第8回：道徳科の指導内容（4）D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 第9回：現代的課題に取り組む道徳教育 第10回：道徳科の授業づくり 第11回：学習指導案の作成 第12回：模擬授業ならびにディスカッション（1）視点A 第13回：模擬授業ならびにディスカッション（2）視点B			

第14回：模擬授業ならびにディスカッション（3）視点C

第15回：授業全体のまとめ

テキスト

笹田博通・山口匡・相澤伸幸編著（2018）『考える道徳教育「道徳科」の授業づくり』福村出版

文部科学省（2019）『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

文部科学省（2019）『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

参考書・参考資料等

その都度、指定する。

学生に対する評価

最終レポート：65%、授業内小レポート：15%、学習指導案：10%、模擬授業：10%

授業科目名： 日本国憲法 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：寺川 史朗
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
日本国憲法の基本を理解する。			
最初に法の世界の特徴を理解し、近代国家が憲法を持つこと（立憲主義）の意味を考え、それを踏まえて、日本国憲法誕生の意義、そこに盛り込まれている人権の歴史、さらに具体的事例を念頭に置きながら人権の各論が理解できるようになります。また憲法の統治機構原則についても基本的な問題点が理解できるようになります。			
なお、教科書を基本に進めますが、必要に応じて、理解を深めるための資料を配布します。			
授業の概要			
日本国憲法が私たちの生活と密接に関わっていることを、特に人権の問題を通じて考えます。憲法とは何か、立憲主義の意味、日本の近代化と明治憲法、日本国憲法制定の歴史、日本国憲法が保障するさまざまな基本的人権、統治機構の原則などを学びます。			
授業計画			
第1回：法とは何か			
第2回：憲法を持つことの意味			
第3回：日本の立憲主義のはじまり			
第4回：日本国憲法の制定			
第5回：日本国憲法の平和主義			
第6回：日本国憲法と国民主権			
第7回：日本国憲法と統治 三権分立（国会・内閣・裁判所）と地方自治			
第8回：日本国憲法と人権 人権総論（基本的人権獲得の歴史）			
第9回：日本国憲法と人権 個人の尊重と幸福追求権			
第10回：日本国憲法と人権 新しい人権（プライバシーの権利、自己決定権）			
第11回：日本国憲法と人権 内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由と政教分離）			
第12回：日本国憲法と人権 表現の自由			
第13回：日本国憲法と人権 教育を受ける権利			
第14回：日本国憲法と人権 こどもの人権			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト

現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第4版』（法律文化社）

参考書・参考資料等

授業内で適宜、紹介する。

学生に対する評価

定期試験 100%

授業科目名： 日本国憲法2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺川 史朗
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
日本国憲法の基本を理解する。			
最初に法の世界の特徴を理解し、近代国家が憲法を持つこと（立憲主義）の意味を考え、それを踏まえて、日本国憲法誕生の意義、そこに盛り込まれている人権の歴史、さらに具体的事例を念頭に置きながら人権の基本原則が理解できるようになります。また憲法の統治機構原則についても基本的な問題点が理解できるようになります。			
なお、教科書を基本に進めますが、必要に応じて、理解を深めるための資料を配布します。			
授業の概要			
憲法とは何か、立憲主義の意味、日本の近代化と明治憲法、日本国憲法制定の歴史、日本国憲法が保障するさまざまな基本的人権、統治機構の原則などを学びます。人権や統治機構の基礎を学びながら、私たちの生活と密接に関わっている日本国憲法について、その問題点も含め考えます。			
授業計画			
第1回：法とは何か			
第2回：憲法を持つことの意味			
第3回：日本の立憲主義のはじまり			
第4回：日本国憲法の制定			
第5回：日本国憲法の平和主義			
第6回：日本国憲法と人権 人権総論（基本的人権獲得の歴史）			
第7回：日本国憲法と人権 個人の尊重と幸福追求の権利			
第8回：日本国憲法と人権 法の下での平等			
第9回：日本国憲法と国民主権			
第10回：参政権と我が国の選挙制度			
第11回：日本国憲法と統治 三権分立と象徴としての天皇			
第12回：日本国憲法と統治 国会・内閣			
第13回：日本国憲法と統治 裁判所			
第14回：日本国憲法と統治 地方自治			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト 現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第4版』（法律文化社）
参考書・参考資料等 授業内で適宜、紹介する。
学生に対する評価 定期試験 100%

授業科目名： 日本国憲法3		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺川 史朗
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標				
日本国憲法の基本を理解する。				
最初に法の世界の特徴を理解し、近代国家が憲法を持つこと（立憲主義）の意味を考え、それを踏まえて、日本国憲法誕生の意義、そこに盛り込まれている人権の歴史、さらに具体的事例を念頭に置きながら人権の各論が理解できるようになります。また憲法の統治機構原則についても基本的な問題点が理解できるようになります。さらに、憲法改正をめぐる議論についても触れ、その中で生じている様々な問題を理解できるようになります。				
なお、教科書を基本に進めますが、必要に応じて、理解を深めるための資料を配布します。				
授業の概要				
日本国憲法が私たちの生活と密接に関わっていることを、特に人権の問題を通じて考えます。憲法とは何か、立憲主義の意味、日本の近代化と明治憲法、日本国憲法制定の歴史、日本国憲法が保障するさまざまな基本的人権、統治機構の原則などを学びます。また、日本国憲法における平和主義や憲法改正をめぐる議論について取り上げ、今後起こり得る諸問題について考えます。				
授業計画				
第1回：法とは何か				
第2回：憲法を持つことの意味				
第3回：日本の立憲主義のはじまり				
第4回：日本国憲法の制定				
第5回：日本国憲法と国民主権				
第6回：参政権と我が国の選挙制度				
第7回：三権分立（国会・内閣・裁判所）				
第8回：日本国憲法と人権 人権総論（基本的人権獲得の歴史）				
第9回：日本国憲法と人権 個人の尊重と幸福追求の権利				
第10回：日本国憲法と人権 教育を受ける権利と学問の自由				
第11回：日本国憲法と人権 こどもの人権				
第12回：日本国憲法と人権 新しい人権（プライバシーの権利、自己決定権）				
第13回：日本国憲法の平和主義				

第14回：憲法改正をめぐる議論

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権 第4版』（法律文化社）

参考書・参考資料等

伊藤真監修『マンガでわかる憲法入門』（ナツメ社）

学生に対する評価

定期試験 100%

授業科目名： 体育実技 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：永松 昌樹
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 身体活動を理解する。 身体活動として運動を行うことが、心身の発達に役立つだけでなく、他者とのコミュニケーションや自己の表現に有効な働きをもたらす事を理解でき、また、身体活動やスポーツ実践が人々の人生にもたらす影響について考えられる。			
授業の概要 スポーツにおける実践活動がもたらす意味について理解を深めることを目的に開講する。授業は受講生の能力に合わせて展開し、実技は主にバドミントンを中心とする。また、「身体活動に関する講義」は、身体活動の基礎となる理論を予定している。			
授業計画 第1回：ガイダンスおよび導入的運動 第2回：身体活動に関する講義 基礎理論 第3回：種目別実技 基礎1 技術の種類（バドミントン） 第4回：種目別実技 基礎2 技術の習得方法（バドミントン） 第5回：種目別実技 基礎3 技術の応用（バドミントン） 第6回：種目別実技 基礎4 ゲームとルール（バドミントン） 第7回：種目別実技 基礎5 ゲームと審判法（バドミントン） 第8回：種目別実技 ゲーム1 個人戦又はチーム戦 技術（バドミントン） 第9回：種目別実技 ゲーム2 個人戦又はチーム戦 技術の応用（バドミントン） 第10回：種目別実技 ゲーム3 個人戦又はチーム戦 作戦の立案（バドミントン） 第11回：種目別実技 ゲーム4 個人戦又はチーム戦 作戦の実行（バドミントン） 第12回：種目別実技 ゲーム5 個人戦又はチーム戦 技術・作戦の振り返り（バドミントン） 第13回：種目別実技 ゲーム6 ゲーム方法の工夫 選手として（バドミントン） 第14回：種目別実技 ゲーム7 ゲーム方法の工夫 審判として（バドミントン） 第15回：種目別実技 ゲーム8 ゲーム方法の工夫 安全面（バドミントン）			
テキスト 特に定めない			
参考書・参考資料等			

浅見俊雄他編『現代体育・スポーツ大系（全30巻）』講談社
渡辺融他編『保健体育―生涯スポーツへの道―』（財）放送大学教育振興会
フランソワ・フォルタン編室星隆吾監訳『図解 スポーツ大百科』悠書館
その他、適宜紹介する。

学生に対する評価

意欲・受講態度50% 授業の理解と実践40% 講義に関するレポートなど10%

授業科目名： 体育実技2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：河原 慶子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
身体活動を理解する。			
身体活動として運動を行うことが、心身の発達に役立つだけでなく、他者とのコミュニケーションや自己の表現に有効な働きをもたらす事を理解でき、また、身体活動やスポーツ実践が人々の人生にもたらす影響について考えられる。			
授業の概要			
スポーツにおける実践活動がもたらす意味について理解を深めることを目的に開講する。授業は受講生の能力に合わせて展開し、実技は主に卓球を中心とする。また、「身体活動に関する講義」は、身体活動の基礎となる理論を予定している。			
授業計画			
第1回：ガイダンスおよび導入的運動			
第2回：身体活動に関する講義 基礎理論			
第3回：種目別実技 基礎1 技術の種類（卓球）			
第4回：種目別実技 基礎2 技術の習得方法（卓球）			
第5回：種目別実技 基礎3 技術の応用（卓球）			
第6回：種目別実技 基礎4 ゲームとルール（卓球）			
第7回：種目別実技 基礎5 ゲームと審判法（卓球）			
第8回：種目別実技 ゲーム1 個人戦又はチーム戦 技術（卓球）			
第9回：種目別実技 ゲーム2 個人戦又はチーム戦 技術の応用（卓球）			
第10回：種目別実技 ゲーム3 個人戦又はチーム戦 作戦の立案（卓球）			
第11回：種目別実技 ゲーム4 個人戦又はチーム戦 作戦の実行（卓球）			
第12回：種目別実技 ゲーム5 個人戦又はチーム戦 技術・作戦の振り返り（卓球）			
第13回：種目別実技 ゲーム6 ゲーム方法の工夫 選手として（卓球）			
第14回：種目別実技 ゲーム7 ゲーム方法の工夫 審判として（卓球）			
第15回：種目別実技 ゲーム8 ゲーム方法の工夫 安全面（卓球）			
テキスト			
特に定めない			
参考書・参考資料等			

浅見俊雄他編『現代体育・スポーツ大系（全30巻）』講談社

渡辺融他編『保健体育―生涯スポーツへの道―』（財）放送大学教育振興会

フランソワ・フォルタン編室星隆吾監訳『図解 スポーツ大百科』悠書館

その他、適宜紹介する。

学生に対する評価

意欲・受講態度50% 授業の理解と実践40% 講義に関するレポートなど10%

授業科目名： 体育実技 1 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：筒井 香
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 身体活動を理解する。 身体活動として運動を行うことが、心身の発達に役立つだけでなく、他者とのコミュニケーションや自己の表現に有効な働きをもたらす事を理解でき、また、身体活動やスポーツ実践が人々の人生にもたらす影響について考えられる。			
授業の概要 スポーツにおける実践活動がもたらす意味について理解を深めることを目的に開講する。授業は受講生の能力に合わせて展開し、実技は主に室内サッカーを中心とする。また、「身体活動に関する講義」は、身体活動の基礎となる理論を予定している。			
授業計画 第1回：ガイダンスおよび導入的運動 第2回：身体活動に関する講義 基礎理論 第3回：種目別実技 基礎1 技術の種類（室内サッカー） 第4回：種目別実技 基礎2 技術の習得方法（室内サッカー） 第5回：種目別実技 基礎3 技術の応用（室内サッカー） 第6回：種目別実技 基礎4 ゲームとルール（室内サッカー） 第7回：種目別実技 基礎5 ゲームと審判法（室内サッカー） 第8回：種目別実技 ゲーム1 個人戦又はチーム戦 技術（室内サッカー） 第9回：種目別実技 ゲーム2 個人戦又はチーム戦 技術の応用（室内サッカー） 第10回：種目別実技 ゲーム3 個人戦又はチーム戦 作戦の立案（室内サッカー） 第11回：種目別実技 ゲーム4 個人戦又はチーム戦 作戦の実行（室内サッカー） 第12回：種目別実技 ゲーム5 個人戦又はチーム戦 技術・作戦の振り返り（室内サッカー） 第13回：種目別実技 ゲーム6 ゲーム方法の工夫 選手として（室内サッカー） 第14回：種目別実技 ゲーム7 ゲーム方法の工夫 審判として（室内サッカー） 第15回：種目別実技 ゲーム8 ゲーム方法の工夫 安全面（室内サッカー）			
テキスト 特に定めない			
参考書・参考資料等			

浅見俊雄他編『現代体育・スポーツ大系（全30巻）』講談社

渡辺融他編『保健体育―生涯スポーツへの道―』（財）放送大学教育振興会

フランソワ・フォルタン編室星隆吾監訳『図解 スポーツ大百科』悠書館

その他、適宜紹介する。

学生に対する評価

意欲・受講態度50% 授業の理解と実践40% 講義に関するレポートなど10%

授業科目名： 体育実技 1 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：河原 慶子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 身体活動を理解する。 身体活動として運動を行うことが、心身の発達に役立つだけでなく、他者とのコミュニケーションや自己の表現に有効な働きをもたらす事を理解でき、また、身体活動やスポーツ実践が人々の人生にもたらす影響について考えられる。			
授業の概要 スポーツにおける実践活動がもたらす意味について理解を深めることを目的に開講する。授業は受講生の能力に合わせて展開し、実技は主にレクリエーション・スポーツを中心とする。また、「身体活動に関する講義」は、身体活動の基礎となる理論を予定している。			
授業計画 第1回：ガイダンスおよび導入的運動 第2回：身体活動に関する講義 基礎理論（レクリエーション・スポーツ） 第3回：種目別実技 基礎1 技術の種類（レクリエーション・スポーツ） 第4回：種目別実技 基礎2 技術の習得方法（レクリエーション・スポーツ） 第5回：種目別実技 基礎3 技術の応用（レクリエーション・スポーツ） 第6回：種目別実技 基礎4 ゲームとルール（レクリエーション・スポーツ） 第7回：種目別実技 基礎5 ゲームと審判法（レクリエーション・スポーツ） 第8回：種目別実技 ゲーム1 個人戦又はチーム戦 技術（レクリエーション・スポーツ） 第9回：種目別実技 ゲーム2 個人戦又はチーム戦 技術の応用（レクリエーション・スポーツ） 第10回：種目別実技 ゲーム3 個人戦又はチーム戦 作戦の立案（レクリエーション・スポーツ） 第11回：種目別実技 ゲーム4 個人戦又はチーム戦 作戦の実行（レクリエーション・スポーツ） 第12回：種目別実技 ゲーム5 個人戦又はチーム戦 技術・作戦の振り返り（レクリエーション・スポーツ） 第13回：種目別実技 ゲーム6 ゲーム方法の工夫 選手として（レクリエーション・スポーツ） 第14回：種目別実技 ゲーム7 ゲーム方法の工夫 審判として（レクリエーション・スポーツ） 第15回：種目別実技 ゲーム8 ゲーム方法の工夫 安全面（レクリエーション・スポーツ）			
テキスト 特に定めない			
参考書・参考資料等			

浅見俊雄他編『現代体育・スポーツ大系（全30巻）』講談社

渡辺融他編『保健体育―生涯スポーツへの道―』（財）放送大学教育振興会

フランソワ・フォルタン編室星隆吾監訳『図解 スポーツ大百科』悠書館

その他、適宜紹介する。

学生に対する評価

意欲・受講態度50% 授業の理解と実践40% 講義に関するレポートなど10%

授業科目名： スポーツと健康の科学1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹内 早耶香
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ現場で起こる事象について心理学的視点から理解する。 スポーツ現場での事象について心理学的視点から理解することができる。			
授業の概要 近年、日本人のスポーツに対する関心は非常に高い。そこで、スポーツ現場で起こる様々な事象について心理学的視点からアプローチする。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：スポーツ心理学の歴史的背景 第3回：生涯発達の視点からみたスポーツ 第4回：スポーツの楽しさ 第5回：あがりとは 第6回：スポーツにおける動機づけ 第7回：運動好きと運動嫌い 第8回：指導者の及ぼす影響 第9回：チームの心理 チームワーク 第10回：チームの心理 リーダーシップ 第11回：怪我 心理学的意味 第12回：怪我 心理サポート 第13回：バーンアウト 第14回：スポーツ選手の心理サポート 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 必要な資料は適宜作成し、配布する。			
参考書・参考資料等 参考図書については、授業中に紹介する。			
学生に対する評価			

受講態度20% 定期試験80%

授業科目名： スポーツと健康の科学2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹内 早耶香
			担当形態：単独
科 目	教員免許免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 試合の場における心理現象 アスリートの心理サポート			
授業の概要 スポーツの試合において、自己の能力を発揮しようとするとき、さまざまな心理的諸問題に遭遇する。そのような場で見られる心理現象を解明していきたい。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：こころとからだのつながり 第3回：あがり 第4回：ピークパフォーマンス 第5回：メンタルマネジメントの実際 アセスメント 第6回：メンタルマネジメントの実際 目標設定 第7回：メンタルマネジメントの実際 リラクゼーション技法 第8回：メンタルマネジメントの実際 セルフモニタリング 第9回：メンタルマネジメントの実際 思考の整理 第10回：メンタルマネジメントの実際 ピークパフォーマンス分析 第11回：メンタルマネジメントの実際 集中力 第12回：メンタルマネジメントの実際 パフォーマンスルーティン 第13回：メンタルマネジメントの実際 ピーキング 第14回：メンタルマネジメントの実際 プレッシャーを力に変える 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 必要な資料は適宜作成し、配布する。			
参考書・参考資料等 参考図書については、授業中に紹介する。			
学生に対する評価			

受講態度10% 授業内小テスト40% レポート50%

授業科目名： 生涯スポーツ・レクリエーション活動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高 千明
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 身体活動としてのスポーツと余暇活動 生涯を通じてのスポーツ活動や余暇におけるレクリエーション活動が健康や活力にどのように有用な役割を果たし、どのような実践が必要なのかについての基礎的知識を獲得する。			
授業の概要 現在社会及び少子高齢化社会においてスポーツやレクリエーション活動が果たす役割について理解することを目標としている。授業計画では、資料配付、ビデオ鑑賞、実体験、レポート作成などを交えながら授業を展開する予定である。			
授業計画 第1回：私たちのからだと生涯スポーツ 第2回：健康を維持する生活スタイル 第3回：国が進める健康づくり施策 第4回：生活習慣病 第5回：肥満を改善するための方法 第6回：たばこ・アルコール・薬物 第7回：運動とストレス 第8回：トレーニング 第9回：無酸素運動と有酸素運動 第10回：運動と骨 第11回：いろいろな環境での運動 第12回：動作の巧みさを科学する 第13回：健康づくり 幼児期，児童期 第14回：健康づくり 青年期，中高年期 第15回：障害者スポーツ 定期試験			
テキスト 特に使用はしない。授業内で資料等随時配布・紹介する。			
参考書・参考資料等			

鵜木秀夫（編）『健康づくりのための運動の科学』（化学同人）

安部孝・琉子友男（編）『これからの健康とスポーツの科学』（講談社）

学生に対する評価

受講態度 30%

定期試験レポート 50%

授業内ミニレポートや提出物の内容 20%

授業科目名： 人間関係と身体表現	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上 摩紀
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ノンバーバル（非言語）コミュニケーションについて基本的な理論を知り、実際の活動場面で体験し、実践できるようになる。			
授業の概要 言葉での情報伝達が中心と考えがちな人と人とのコミュニケーションについて、言葉以外の要素（ノンバーバル）に着目し、知識を深め、さまざまな場面での実践を経験し、ノンバーバルコミュニケーションを活用する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ノンバーバルコミュニケーションとは 第3回：ノンバーバルコミュニケーションで伝わるもの 第4回：顔（容姿） 第5回：表情 第6回：姿勢 第7回：ジェスチャー・身体接触 第8回：空間 第9回：嘘 第10回：コミュニケーション・ゲームの活用 第11回：コミュニケーション・ゲームの実践1 ― コミュニケーション・ゲーム 第12回：コミュニケーション・ゲームの実践2 ― ノンバーバルコミュニケーションゲームの実践 第13回：コミュニケーション・ゲームの実践3 ― ノンバーバルコミュニケーションゲームの実践と振り返り 第14回：生活場面に活かすには1（講義） 第15回：生活場面に活かすには2（実践） 定期試験			
テキスト 特に定めない。必要に応じて資料を配付する。			
参考書・参考資料等 特に定めない。必要に応じて紹介する。			

学生に対する評価

受講態度 25%

定期試験 50%

毎回の小レポート 25%

授業科目名： 英語 I a		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 木塚 恵子	
						担当形態：クラス分け・単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」という、総合的な英語運用能力の向上。 記述されたり発言された内容を正確に理解して(読む・聞く) 英語でメモをとったり(書く)、 基本的な語彙・文法力をいかして日常の身の回りの事柄について積極的に英語でコミュニケーションできる(話す) ようになる。							
授業の概要							
ロールプレイ、プレゼンテーション、インタビュー、クラスメートとの共同作業など、実際に活動することで英語の基本的なルールを身につけられるように授業を進めていく。さらに毎授業で1 つずつ英語の早口言葉を扱って英語独特の発音のコツとリスニング力を身につける。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション							
Unit 0 How do you spell that? (短縮形の聞き取り・クラスルームイングリッシュ・質問をする)							
第2回：Unit 1 Can you open the window? (依頼表現・連結する音を聞き取る・積極的に関わりをもつ方法)							
第3回：Unit 2 I like tea. (好みを話す)							
第4回：Unit 2 I like tea. (文強勢の聞き取り・確認の質問をする)							
第5回：Unit 3 She’s studying. (人がしていることを話題にする)							
第6回：Unit 3 She’s studying. (弱母音の聞き取り・確認のため繰り返してもらう方法)							
第7回：Unit 4 What’s the date today? (日にち、曜日、イベントについて話題にする)							
第8回：Unit 4 What’s the date today? (文強勢を聞き取る・確認ための質問をする)							
第9回：Unit 5 What do you mean? (職業を話題にする)							
第10回：Unit 5 What do you mean? (弱母音を聞き取る・確認のため意味を尋ねる方法)							
第11回：Unit 6 Where’s my phone? (部屋の中の場所や物を説明)							
第12回：Unit 6 Where’s my phone? (文強勢を聞き取る・シャドーイングで確認する方法)							
第13回：Unit 7 You’re going to work? (未来の予定を話題にする)							
第14回：Unit 7 You’re going to work? (弱母音を聞き取る・確認の質問をする方法)							
第15回：Review Unit (復習とまとめ)							

テキスト

Alastair Graham-Marr, David Moran, Brett Reynolds, Suzanne Mcneese (2021)

『Communication Spotlight 3rd Edition: Starter』 ABAX Ltd.

参考書・参考資料等

特に定めない。必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

平常点（ミニッツペーパー）14%、授業内試験（筆記）56%、授業内試験（リスニング）30%

授業科目名： 英語 I b	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 木塚 恵子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
「読む」、「聞く」、「書く」、「話す」という、総合的な英語運用能力の向上。 記述されたり発言された内容を正確に理解して(読む・聞く) 英語でメモをとったり(書く)、 基本的な語彙・文法力をいかして日常の身の回りの事柄について積極的に英語でコミュニケーションできる(話す) ようになる。			
授業の概要			
ロールプレイ、プレゼンテーション、インタビュー、クラスメートとの共同作業など、実際に活動することで英語の基本的なルールを身につけられるように授業を進めていく。さらに毎授業で1 つずつ英語の早口言葉を扱って英語独特の発音のコツとリスニング力を身につける。			
授業計画			
第1回：Unit 8 When do you have chemistry? (学校のスケジュールを話題にする)			
第2回：Unit 8 When do you have chemistry? (弱母音の聞き取り・確認のため繰り返してもらう方法)			
第3回：Unit 9 I can cook! (自分ができることを話題にする)			
第4回：Unit 9 I can cook! (文強勢の聞き取り・積極的に会話に参加する方法)			
第5回：Unit10 What time do you get up? (毎日することを話題にする)			
第6回：Unit10 What time do you get up? (文強勢の聞き取り・確認のため繰り返してもらう方法)			
第7回：Unit 11 How many are there? (数字をスムーズに言ったり聴き取ったりする)			
第8回：Unit 11 How many are there? (数字中の弱母音の聞き取り・シャドーイングで確認する)			
第9回：Unit 12 What did you do after school? (過去のことを話題にする)			
第10回：Unit 12 What did you do after school? (融合・同化する音の聞き取り・積極的に会話にかかわるための方法)			
第11回：Unit 13 It's black and white. (物や動物を描写説明する)			
第12回：Unit 13 It's black and white. (連結する音の聞き取り・確認のため意味を尋ねる方法)			
第13回：Unit 14 When does it start? (質問をして会話を続ける)			
第14回：Unit 14 When does it start? (弱母音の聞き取り・繰り返してもらう方法)			
第15回：Review Unit (復習とまとめ)			
テキスト			

Alastair Graham-Marr, David Moran, Brett Reynolds, Suzanne Mcneese (2021)

『Communication Spotlight 3rd Edition: Starter』 ABAX Ltd.

参考書・参考資料等

特に定めない。必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

平常点（ミニッツペーパー）14%、授業内試験（筆記）56%、授業内試験（リスニング）30%

授業科目名： I C T入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大秦 一浩
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、いかに効果的に情報を活用できるかを実践的に学ぶ。			
1. テキストおよび授業資料において記述された内容を明確に理解し、出された指示を実行することができる。			
2. 多様な情報を適切に扱うための知識を身に付け、Microsoftの基本操作を通して、主体的に大学での学修や就職後の実務に生きる力を身に付けることができる。			
3. テキスト及び授業資料において、必要な情報を効果的に収集・活用し、課題発見・解決のためにExcel、Word、PowerPointの機能を使いこなすことができる。			
授業の概要			
Officeソフトの操作学習を通じ、身近な素材を元に文書作成ソフト（Word）ではレポート作成、表計算ソフト（Excel）ではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）ではスライド作成といった、PCスキルの基本操作を身に付ける。また、情報社会における様々な危険から自分たちの身を守るための知識、情報を扱う上での知識・技能である、広義の情報リテラシーの醸成を図る。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
Windowsの基本（ファイルとフォルダの操作）、Word 入力・修正			
第2回：データAI利活用			
第3回：セキュリティと情報モラル、メールコミュニケーション			
第4回：Word 文書作成①（書式・表の作成）			
第5回：Word 文書作成②（図の挿入・印刷）			
第6回：Word レポート作成①（ページ設定・参考文献）			
第7回：Word レポート作成②（目次の挿入・校正）			
第8回：Excel 基本操作、表作成①（データ入力）			
第9回：Excel 表作成②（罫線・行列の調整）、印刷			
第10回：Excel 計算式			
第11回：Excel 関数			

第12回：Excel グラフ作成

第13回：PowerPoint プレゼンテーションとは

基本操作・スライド作成①（デザイン・レイアウト）

第14回：PowerPoint スライド作成②（スライド作成演習、総復習課題）

第15回：PowerPoint スライド作成③（プレゼンテーションにおいて活用できる知識・技能、総復習課題）

テキスト

noa出版（2022）『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル』noa出版

参考書・参考資料等

特に定めない。必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢 75%、授業内課題 10%、最終課題 25%

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森田 裕之
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
「教育原論」は「教育の基礎理論に関する科目」の中の一つであり、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」をテーマとしている。このことを踏まえれば、本授業の到達目標は以下の四点となる。①教育の概念を理解すること。②教育の概念の具体化としての教育実践の歴史を理解すること。③教育実践を規定する教育思想の歴史を理解すること。④教育実践と教育思想の歴史が流れ込む今日の教育のあり方を理解すること。			
授業の概要			
まず、到達目標①を達成するために、教育の概念を複数の観点から明らかにする。次に、到達目標②を達成するために、教育の概念の具体化としての教育実践の歴史について概観する。さらに、到達目標③を達成するために、教育実践を規定する教育思想の歴史について概観する。最後に、到達目標④を達成するために、教育実践と教育思想の歴史が流れ込む今日の教育のあり方を、学校教育における教科指導と道德教育を中心として見ていく。			
授業計画			
第1回：授業のテーマ及び到達目標・授業の概要の説明 教育の概念—教育とは何か			
第2回：教育の概念—発達・生成・生成変化という人間の変容の観点から			
第3回：教育の概念—〈教える - 学ぶ〉という教育関係の観点から			
第4回：教育の概念の具体化としての教育実践の歴史—前近代			
第5回：教育の概念の具体化としての教育実践の歴史—近代			
第6回：教育実践を規定する教育思想を学ぶことの意義			
第7回：教育実践を規定する教育思想の歴史—コメニウスの教育思想			
第8回：教育実践を規定する教育思想の歴史—ロックの教育思想			
第9回：教育実践を規定する教育思想の歴史—ルソーの教育思想			
第10回：教育実践を規定する教育思想の歴史—ペスタロッチの教育思想			
第11回：教育実践を規定する教育思想の歴史—フレーベルの教育思想			
第12回：教育実践を規定する教育思想の歴史—ヘルバルトの教育思想			
第13回：教育実践を規定する教育思想の歴史—デューイの教育思想			
第14回：教育実践と教育思想の歴史が流れ込む今日の教育のあり方 一学校教育における教科指導と道德教育を中心として			

第15回：総括—新しい教育の地平に向けて
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 今井康雄（編）『教育思想史』（有斐閣）
学生に対する評価 授業内小レポート（30%）と期末レポート（70%）とによって評価する。

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林 正幸
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
（テーマ）考える力を育てる学校教育の創造 学校教育は子どもたち一人一人の幸せを願って行われる。そのために、教師が「専門家」、「専門職」として職務に取り組むために必要となる内容を学び、個々の力量を高める方策を考えることを通して教職生涯の大まかなイメージをつかむ。そして、学校教育の核となる「考える力」を育てるための教員の役割や職務内容について追究する。			
授業の概要			
本講義では、今日の学校教育の現状と課題を正しく捉え、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容等について理解することを目指す。子どもたちが生きていく過程で必要となる「考える力」という課題を、小学校、中学校、高等学校それぞれの段階を通していかに実現すればよいかを探究する。本講義の目的は、本学の仏教精神に基づく教育を基に、子どもたちの幸せを願って行われる学校教育のあるべき姿を考え、教職という職業を選択するための様々な情報や体験の機会を学生に提供することである。			
授業計画			
第1回：教職の意義（1）：自らの教師像を問い直す			
第2回：教職の意義（2）：自ら学ぶということ			
第3回：教職の意義（3）：教えるということ—考える力の育成—			
第4回：教職の意義（4）：教師として伝えたい言葉			
第5回：教員の役割（1）：教育課程を創造する			
第6回：教員の役割（2）：授業づくりの多様性			
第7回：教員の役割（3）：アクティブラーニングを促進する発問と教材研究			
第8回：教員の役割（4）：多様な教育的ニーズから創造する			
第9回：教員の役割（5）：学校・家庭・地域の中で育つ			
第10回：教員の職務内容（1）：研修—授業を準備する、行う、授業から学ぶ方法—			
第11回：教員の職務内容（2）：研修—教科外活動の指導を考える—			
第12回：教員の職務内容（3）：研修—学校の現状と課題—			
第13回：教員の職務内容（4）：サービスおよび身分保障—人事、教員の労働環境—			
第14回：進路選択と教職への適性（1）：討論 —チーム学校運営への対応—			

第15回：進路選択と教職への適性（2）：チーム学校運営への対応と教職の職能成長
テキスト 特になし（授業時に必要な資料を配付する）
参考書・参考資料等 文部科学省「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」 （いずれも最新版）
学生に対する評価 授業への取組姿勢（討論や発言の内容）50%、レポート 50%

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：野村 洋平
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
いくつかの教育現象を取り上げ、学生が具体的な事例を教育社会学の知識と合わせて考えるこ とにより、教育の社会的機能や役割を理解するようになる。			
授業の概要			
この講義では、教育や学校制度の成り立ち、教師と生徒の人間関係の問題、教室内の秩序形成、 学校における逸脱現象、自己形成と発達との関連を取り上げる。これらの問題については、 でき得る限り国際比較や過去の教育現象との比較の観点も導入する。また、学校のみでなく、 地域、家族、社会的・歴史的背景など幅広い視点を得ることにより、教育現象を社会全体との 関連で捉え、社会学的理解を深めることを目指す。			
授業計画			
第1回：教育の自明性への問いかけ：社会学の方法			
第2回：学校という社会的装置（「学校と地域との連携」を含む）			
第3回：学級集団の特性			
第4回：教師と児童・生徒との人間関係 教師の権威と権力			
第5回：隠れたカリキュラム：学習内容と道徳			
第6回：ダブルバインド理論から見る教育の葛藤			
第7回：学校における逸脱現象：いじめ、体罰、対教師暴力など（「学校安全への対応」を含む）			
第8回：いじめの社会的背景：データと教育現象との関連			
第9回：いじめのメカニズム			
第10回：生徒間のコミュニケーションの諸問題			
第11回：役割取得と役割演技			
第12回：社会的性格とコミュニケーション			
第13回：遊びの意義			
第14回：「生きる力」の涵養（「学校安全への対応」を含む）			
第15回：社会化と超社会化（「学校と地域との連携」を含む）			
定期試験			
※なお、第3回、第7回、第11回では、映像資料を利用する予定である。映像資料に基づいて 考える課題を出し、小レポートの提出を求める。			

テキスト

無し（各授業時に、テーマに沿ってこちらで準備したプリントを配布する）

参考書・参考資料等

加野芳正・藤村正司・浦田広朗【編著】『新説 教育社会学』（玉川大学出版部、2007年）

岩井八郎・近藤博之【編】『現代教育社会学』（有斐閣、2010年）

原清治／山内乾史／杉本均【編著】『【増補版】教育の比較社会学』（学文社、2008年）

荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『教育の社会学〔新版〕』（有斐閣、2010年）

片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和【編著】『半径5メートルからの教育社会学』（大月書店、2017年）

学生に対する評価

- ・小レポート 30%（10%×3回）：教育現象について自分自身の見解を述べる。

※なお、小レポート提出が2回以上なされていない場合、定期試験を受けても採点の対象とはしない。

- ・定期試験 70%：授業内容の確認と知識の応用を問う筆記試験

授業科目名： 教育行財政学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本 圭将 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 授業テーマ：教育を支える教育行財政とその制度を学ぶ 到達目標：教育行財政に関する知見を深め、教育に対する視野を広げることで俯瞰的に教育に ついて考えることができるようになる。			
授業の概要 公教育である学校教育において、その実践の背景には教育法規に支えられる教育制度と教育 法規の理念を具現化する教育行政が存在し、その意義を理解せずに「教員」としての務めを果 たすことは困難である。本授業では教育行財政制度の理解とその課題の検討を行うとともに、 学校と地域との連携や学校安全への対応など、実際の取り組み事例を紹介しながら理解を深め る。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／教育法規と教育行財政の関係性 第2回：教育の理念を実現する法制度 第3回：学校教育制度①（学校制度の理論） 第4回：学校教育制度②（各論） 第5回：中央教育行政に関する制度 第6回：地方教育行政に関する制度 第7回：教育財政に関する制度 第8回：教育課程行政に関する諸制度 第9回：教職員に関する諸制度①（教員の身分と職階） 第10回：教職員に関する諸制度②（教員養成） 第11回：私立学校行政に関する制度 第12回：学校安全への対応 第13回：学校と地域の連携 第14回：近年の教育政策と諸課題 第15回：講義のまとめ 定期試験			
テキスト			

高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップ・ネクストver.2.0—Crossmedia Edition』昭和堂、2023年。

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

試験（70％）と授業中の提出物（30％）で評価する

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中（桑原）希穂
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
子どもが学び発達する様相を理解することで、心理学的な視点から子どもの発達と学習活動を支え、かかわることができるようになることを目指す。また、教育に求められるものは何かを考え、教育実践上の問題の理解および解決に役立つ知識の獲得を目指す。			
授業の概要			
高度化・多様化した社会を生き抜くためには、自ら学び、考え、創造する態度を養い、生涯にわたって成長する児童・生徒を育てることが重要である。教育の現場では、幼児・児童・生徒の心身の発達の特徴、学びのメカニズム、学級集団での社会性などの心理特性を十分に理解することがことさら必要となっている。この講義では、児童・生徒の心身の発達過程を学び、教師として教育現場で必要な児童・生徒の理解に関連する知識を深める。また、心理学的な観点から学習のメカニズムを学ぶとともに、学習場面における児童・生徒の動機づけと認知・感情・行動の関係について学習する。さらに、児童・生徒の個性について考え、学校適応についての理解を深める。			
授業計画			
第1回：生涯発達と生涯学習 発達の規定因と学習活動との関連			
第2回：子どもの発達① 運動と言葉の発達			
第3回：子どもの発達② 記憶構造と認知の発達			
第4回：子どもの発達③ 感情の発達と道徳判断			
第5回：子どもの発達④ 自己の認識とアイデンティティの確立			
第6回：子どもの発達⑤ 社会性の発達といじめ			
第7回：子どもの発達⑥ 発達障害とその支援			
第8回：前半のまとめと質問			
第9回：子どもの学習① 学習のメカニズム			
第10回：子どもの学習② 原因帰属と学習性無力感			
第11回：子どもの学習③ 達成動機と自己効力感			
第12回：子どもの学習④ 内発的動機づけと報酬			
第13回：子どもの学習⑤ やる気と教室構造			
第14回：子どもの学習⑥ やる気と学習評価			

第15回：後半のまとめと質問・テスト

テキスト

特に指定しない（担当教員が作成した各授業回の資料を配付する）。

参考書・参考資料等

山本真由美著『発達心理学をアクティブに学ぶ』（北大路書房）

杉村伸一郎（監修）『あなたの経験とつながる教育心理学』（ミネルヴァ書房）

鹿毛雅治著『学習意欲の理論 動機づけの教育心理学』（金子書房）

その他，講義内で随時紹介する。

学生に対する評価

平常点 50%

出席状況，講義への参加状況，毎回の振り返りの課題の評価による総合評価

期末筆記試験 50%

講義内容全般に関する知識の理解・獲得状況

授業科目名： 発達心理学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 久美子
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
幼児、児童及び生徒の各発達段階における心身の発達および学習の過程に関する基本的な概念を学び、各時期の子どもの発達の变化や学習活動に関する幅広い知識の習得を目指す。これにより、幼児、児童及び生徒が日常経験する諸事象を心理学の理論や概念を用いて説明し、考察する力を養う。さらに、心身の発達の特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる多様な視点の獲得を目指す。				
授業の概要				
幼児期から青年期の各時期における学習面、心理・社会面、健康面での発達課題・教育課題について講義する。発達の变化の全体像を把握するため、学校段階別に認知、思考、社会性の各領域における発達の特質や差異を概観する。それらを踏まえた上で、主体的な学習活動や適応的な発達を促す教育実践につながる心理学的な知見や技術について説明する。また、特別な配慮を必要とする子どもに対しても、その認知特性に配慮した支援の可能性について検討する。				
授業計画				
第1回：エリクソンの発達理論（各発達段階の発達特性と発達課題）				
第2回：アイデンティティをめぐる諸問題				
第3回：学習理論と教育（行動主義、構成主義）				
第4回：児童・生徒の学習意欲（動機づけ理論）				
第5回：目標設定と自己効力感（マインドセット理論）				
第6回：学業達成場面における自己統制（メタ認知と自律的な学び）				
第7回：記憶と教育（記憶のしくみ、知識の表象）				
第8回：学級集団と友人関係（学級集団理解）				
第9回：児童・生徒の学校適応感を高める（自尊感情を育む、ストレスとその対処）				
第10回：児童・生徒の心身の変化と諸問題				
第11回：親子関係の発達				
第12回：青年期における恋愛関係				
第13回：教授方法の種類と特徴（学習者の個人差、適性処遇交互作用）				
第14回：教育評価（学習の達成度の評価、心理測定）				

第15回：特別な配慮を必要とする子どもへの教育（発達障害の理解と学習支援の方法）
定期試験

テキスト

各回の授業で配布するプリント資料に沿って進める。主に講義型の授業となるが、心理テストや実験を取り入れ、学生自身のデータを授業内容に反映していく。また、授業内容の理解を深めるために、関連する動画資料も用いる。

参考書・参考資料等

藤村宣之 編著『発達心理学[第2版]:周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか』（ミネルヴァ書房、2018年）

白井利明 編著『よくわかる青年心理学[第2版]』（ミネルヴァ書房、2015年）

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）80% と授業中の課題提出分（複数回）20% とで総合的に評価する。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上 和久 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 特別支援教育の定義・理念・制度・歴史について理解する。 ・ 特別支援教育の推進やインクルーシブ教育システムについて理解する。 ・ 各学校、特別支援学校に在籍する障害のある児童および日本語の習得に困難がある等障害はないが特別の教育的ニーズのある児童について知る。 ・ 特別支援学校・特別支援学級での教育、通級による指導、通常の学級での支援について理解する。 ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画について知る。 ・ 特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能、学校間連携（スクールクラスター）や関係機関との連携の在り方について知る。 ・ 就学・移行期の支援について知る。			
授業の概要			
本講義では、障害のある又は障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒への幼稚園や小学校、中学校、高等学校での教育について基本的な知識を習得し理解を深めるため、特別支援教育の定義、理念、制度、歴史及びインクルーシブ教育システムについて説明する。次に特別支援教育の対象となる児童・生徒の障害および特別の教育的ニーズについての概要、特別支援学校や特別支援学級等での教育課程や通級による指導、通常の学級での特別な配慮・支援、個別の教育支援計画・個別の指導計画について説明を行う。また、特別支援教育を推進するための特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能、学校間連携（スクールクラスター）や関係機関との連携、移行期の支援について解説を行う。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の動向（定義・理念・制度・歴史）			
第2回：特別支援教育の対象児について1（特別支援学校、特別支援学級に在籍する児童・生徒）			
第3回：特別支援教育の対象児について2（通級による指導・通常の学級に在籍する発達障害等の児童・生徒、障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒）			
第4回：特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）1（視覚障害）			
第5回：特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）2（聴覚障害）			
第6回：特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）3（知的障害）			

第7回：特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）4（肢体不自由）

第8回：特別支援学校の教育（教育課程の編成および自立活動の指導を含む）5（病弱）

第9回：各学校における特別支援教育

（特別支援学級の教育課程、通級による指導、自立活動の指導、通常の学級での支援）

第10回：特別支援教育の推進とインクルーシブ教育システムの構築

第11回：個別の教育支援計画・個別の指導計画

第12回：校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの役割

第13回：特別支援学校のセンター的機能と地域への相談支援

第14回：学校間連携（スクールクラスター）、関係機関との連携について

第15回：就学・移行期の支援について

定期試験

テキスト

『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』（平成29年4月告示）海文堂出版

『特別支援学校高等部学習指導要領』（平成31年2月告示）海文堂出版

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月）開隆堂出版

『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）』（平成31年2月）ジアース教育新社

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』（平成30年3月）開隆堂出版

参考書・参考資料等

適時配布する。

学生に対する評価

1. 授業態度（20%） 2. レポート等の提出物（20%） 3. 定期試験（60%）の総合評価

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺川 直樹
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 教育課程編成の理論・歴史的背景・法的基盤を理解する。			
・ 教育課程を編成する際の基礎・基本となる考え方を知る。			
・ カリキュラム・マネジメントを主体的・対話的で深い学びやPDCAサイクル、カリキュラム評価などの観点から考える。			
授業の概要			
本講義では教育課程編成の重要性を、理論・歴史的背景・法的基盤から理解することを目的の一つとする。カリキュラムを編成する際、どのような理論を基盤として編成されるのか、どのような歴史的背景によって、そしてどのような法的基盤を根拠として今日の教育課程が成り立っているのかなどを多角的な視点から学ぶ。こうした背景知識を学んだうえで、教科および道徳科などの授業づくりについても全体的な視野から考察することが、本講義のもう一つの目的となる。さらに、近年大きな課題となっているカリキュラム・マネジメントについても、主体的・対話的で深い学びやPDCAサイクル、カリキュラム評価などの観点から理解を深めることを目指す。			
授業計画			
第1回：学習指導要領と教育課程編成の目的			
第2回：現在の教育課程改革（社会に開かれた教育課程）			
第3回：教育課程編成の原則（1）子ども中心主義と学問中心主義			
第4回：教育課程編成の原則（2）カリキュラム編成の類型			
第5回：教育課程と教授理論（形式陶冶、実質陶冶）			
第6回：教育課程と評価（評価方法の類型）			
第7回：教育課程の歴史（1）戦後から高度経済成長期までの学習指導要領の変遷			
第8回：教育課程の歴史（2）昭和52年から平成20年までの学習指導要領の変遷			
第9回：教育課程の歴史（3）平成20・平成29年の学習指導要領			
第10回：教育課程の法的基盤（教育基本法、学校教育法）			
第11回：カリキュラム編成の方法（1）教科			
第12回：カリキュラム編成の方法（2）道徳科など			
第13回：カリキュラム・マネジメント（1）主体的・対話的で深い学び、PDCAサイクル			

第14回：カリキュラム・マネジメント（2）カリキュラム評価

第15回：教育課程編成の理論と実践のまとめ

定期試験

テキスト

田中潤一（2016）『教育課程の理論と方法』北斗書房

文部科学省（2019）『小学校学習指導要領 総則編』

文部科学省（2019）『中学校学習指導要領 総則編』

文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領 総則編』

参考書・参考資料等

森山賢一（2021）『教育課程編成論』改訂版、学文社

学生に対する評価

定期試験：70% 授業内小レポート：30%

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：柳澤 彰紀 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 総合的な学習（探究）の時間の時代的要請と今日的課題、先進的なカリキュラムや評価の実際 について学び、グループ討議における思考の深化を踏まえた指導計画の作成を行い、教員とし ての指導力量の基礎を培う。			
授業の概要 本授業では、学校現場で実用可能な総合的な学習（探究）の時間の指導の具体を構想し、教員 を目指す学生の実践力を高める。そのために、実際の指導事例を豊富に用いるとともに、学生 の柔軟なアイデアや創造性が発揮できるよう、例えばグループ討議の機会を多くするなどの授 業改善を図る。理論と実践がつながるように、単元指導計画については、構想・修正・発表・討 議・提出のプロセスを経ることにする。			
授業計画 第1回：学習指導要領の変遷と総合的な学習（探究）の時間 第2回：教育課程の構造と総合的な学習（探究）の時間で育む資質・能力 第3回：探究過程の特質と探究課題設定のあり方 第4回：横断的・総合的な探究課題（現代的な諸課題）の指導の実際 第5回：地域や学校の特色に応じた探究課題の指導の実際 第6回：児童・生徒の興味・関心に基づく探究課題の指導の実際 第7回：職業や自己の将来に関する探究課題の指導の実際 第8回：単元指導計画の構想 第9回：深い学びの実現につなげる「考えるための技法」（思考ツール） 第10回：学校の創意工夫とカリキュラム・マネジメント 第11回：指導と評価の一体化と具体的な手立て：PDCAサイクルとOODAループ 第12回：単元指導計画の修正と資料作り 第13回：グループごとの単元指導計画の発表と討議 第14回：理論と実践の往還の観点からの講義全体の振り返り 第15回：教育改革の潮流と総合的な学習（探究）の時間			

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』：東洋館出版社（最新版）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』：東山書房（最新版）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』：東洋館出版社（最新版）

参考書・参考資料等

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』：アイフィス

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』：アイフィス

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）』：アイフィス

学生に対する評価

単位の認定は2／3以上の授業参加を前提とする。評価の割合は以下の通り。

- ・授業中の発表や講義の振り返り（50%）
- ・個人で作成した単元指導計画（25%）
- ・期末レポート（25%）

授業科目名： 特別活動論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋山 麗子
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ				
特別活動は、我が国の小・中・高等学校の教育課程に位置づけられている重要な分野である。本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、意義、歴史、内容、道徳・総合的な学習の時間・生徒指導や学級経営などとの関連などについて理解させた上で、理論だけでなく各学校種における各内容の実践的な指導力を身につけるようにする。				
授業の概要				
教育課程における特別活動の位置づけ、特別活動の歴史、特別活動の特徴と意義、特別活動の内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導および学級経営の関連について理論的に述べるとともに、グループに分けて討論、話し合い活動、集団決定の体験、映像教材や資料を使用して優れた実践の分析と討論、各内容の学習指導案（実施計画案）の作成などを通して実践的指導力を養成する。				
授業計画				
第1回：教育課程における特別活動の位置づけ				
第2回：特別活動の目的と内容				
第3回：特別活動の特徴と意義				
第4回：特別活動の教育課程上の変遷				
第5回：特別活動の評価				
第6回：特別活動と学級経営（1）学級集団形成と特別活動				
第7回：特別活動と学級経営（2）学級の建て直しと特別活動				
第8回：特別活動と道徳・生徒指導				
第9回：特別活動とクロスカリキュラム				
第10回：特別活動の話し合い活動				
第11回：特別活動が育てる力の検討				
第12回：学級活動の実践				
第13回：児童会活動・生徒会活動・クラブ活動の実践				
第14回：学校行事の実践				

第15回：特別活動の現状と今後の課題

定期試験（レポート）

テキスト

『新しい教職教育講座 教職教育編9 特別活動』 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』
『小学校学習指導要領解説 特別活動編』『生徒指導提要』（いずれも最新版）

学生に対する評価

(1)授業への参加度 60% (2)定期試験レポート 40%

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：福嶋 祐貴
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
教育方法に関する基礎的な知識・技能を習得することで、様々な優れた教育方法・技術の特徴を分析し、説明できるようにする。また、諸概念を活用して、実際に学習指導案をつくり、実践できる力量を身に付ける。			
授業の概要			
学習指導要領では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を明確化し、教育目標や内容を見直すとともに、学習・指導方法と評価を一体のものとして改善することが目指されています。そのために、教育方法・技術を工夫し、発展させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが教師には求められています。そこで本講義では、教育方法・技術に関する基礎的な知識・技能を身につけるとともに、授業づくりをめぐる歴史的到達点と今日的課題を交えて考察し、実践で活用できるようにします。その際、事例検討や実際の授業技術に関わるワークやディスカッションを積極的に取り入れます。第4回以降は、教育方法に関する知見を学びながら、実際に少しずつ学習指導案を組み立てていきます。			
授業計画			
第1回：主体的・対話的で深い学び			
第2回：教材・教具（1）教科書をどう使うか			
第3回：教材・教具（2）教材研究の進め方			
第4回：授業の設計と学習指導案の作成			
第5回：教育目標の設定			
第6回：教育評価・学習評価（1）観点別学習状況の評価			
第7回：教育評価・学習評価（2）多様な評価方法の工夫とパフォーマンス評価			
第8回：子ども理解と授業			
第9回：単元計画の作成（1）系統主義に基づく学習の展開			
第10回：単元計画の作成（2）経験主義に基づく学習の展開			
第11回：指導言の構想（1）発問のはたらきと活用			
第12回：指導言の構想（2）説明と指示のポイント			
第13回：学習形態の構想（1）一斉学習の工夫			

第14回：学習形態の構想（2）個別最適な学びと協働的な学び

第15回：板書計画の意義と板書の方法

テキスト

・田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣、2012年。

参考書・参考資料等

・田中耕治編著『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年。

・学習指導要領（最新版。少なくとも免許取得を希望する校種のものは、冊子あるいは各自の端末等で常時参照できるようにしておくこと）

学生に対する評価

（1）授業態度・意欲（50%）

前提として、5回分相当以上欠席の場合は単位を認定しない。

授業態度・意欲に関わる評価として、毎回作成してもらうワークシートを成績に反映させる。

提出がない場合や、無記入、ないし十分な思考の形跡が窺えない場合などは減点対象とする。

（2）期末レポート（50%）

講義中に扱った内容をもとにした課題を課し、執筆してもらう。具体的な課題は学期中盤に発表する。

授業科目名：ICT活用 教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：福嶋 祐貴
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
ICT（情報通信技術）を活用した教育に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また、ICTを活用した学習指導・校務の在り方、および児童生徒の情報活用能力を育む指導の在り方について説明できるようになる。			
授業の概要			
技術が飛躍的に発展することによって、社会は大きく変化を遂げていくものと予想されています。その先にあるのが、「第4次産業革命」や「Society 5.0」といった社会の在り方です。そのような背景のもと、学校教育の在り方にも変化が求められています。たとえば、中央教育審議会が2021年1月に出した答申の中では、今後目指すべき学校教育の姿として「令和の日本型学校教育」が打ち出され、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが求められています。そのための主な手立てとして、ICT（情報通信技術）を効果的に活用することに注目が集まっています。本講義では、具体的な事例をもとにしたワークやディスカッションなども積極的に取り入れながら、昨今急速に重要度を増しているICTを活用した教育の在り方について、説明・実践できるようになることを目指します。			
授業計画			
第1回：教育の情報化をめぐる動向			
第2回：各教科等における「デジタル教科書」を用いた授業づくり			
第3回：各教科等におけるプログラミング教育の考え方と方法			
第4回：様々なICTに支えられた学校教育（校務での活用を含む）			
第5回：遠隔教育の考え方と方法			
第6回：ICTを活用した学習評価			
第7回：情報活用能力の内容とその育成（情報モラルに関する指導を含む）			
第8回：「社会に開かれた教育課程」とICT活用			
テキスト			
『教育の情報化に関する手引』（最新版。各自端末を持参し、文部科学省の該当WebページからPDFを表示できるように準備しておくこと）			
参考書・参考資料等			
学習指導要領（最新版。少なくとも免許取得を希望する校種のものは、冊子あるいは各自の端			

末等で常時参照できるようにしておくこと)

学生に対する評価

(1) 授業態度・意欲 (50%)

前提として、3回分相当以上欠席の場合は単位を認定しない。

授業態度・意欲に関わる評価として、講義後に作成してもらうワークシートを成績に反映させる。提出がない場合や、無記入、ないし十分な思考の形跡が窺えない場合などは減点対象とする。

(2) 期末レポート (50%)

講義中に扱った内容をもとにした課題を課し、執筆してもらう。具体的な課題は授業中盤に発表する。

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋山 麗子
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
生徒指導は、すべての児童生徒の人格のよりよい発達をめざし、学校生活が有意義で充実したものになること目指した重要な意義をもつ教育活動である。また、進路指導・キャリア教育は将来の進路を選択・計画する能力を培い、社会へ参画できる長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。これらの指導上の重要な課題である望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を柱とし、生徒指導を充実させるための学級経営や児童理解の在り方、個別の児童生徒への指導、進路指導・キャリア教育のための理論と学校組織、それぞれの指導における家庭との連携等を中心に、理論だけでなく諸問題の実践的な指導力を身につけるようにする。				
授業の概要				
学校教育における生徒指導、進路指導・キャリア教育について、生徒指導の教育的意義や教育課程、特別活動、道徳、学級経営との関連を理論的に述べるとともに、グループに分けて、望ましい学級集団形成を目指した学級経営について、映像教材や資料を使用して優れた実践を分析し討論、各内容の実施計画案作成などを通して実践的指導力を養成する。				
授業計画				
第1回：望ましい人間関係づくりを目指した指導(1)集団指導について				
第2回：望ましい人間関係づくりを目指した指導(2)個別指導について				
第3回：教育課程と生徒指導				
第4回：生徒指導と道徳、特別活動				
第5回：学校における進路指導とキャリア教育				
第6回：進路指導とキャリア教育(1)キャリア教育の理論				
第7回：進路指導とキャリア教育(2)キャリア教育の方法				
第8回：生徒指導と学級経営(1)望ましい学級集団の形成と学級が機能しない状況				
第9回：生徒指導と学級経営(2)小学校低学年の学級経営の実際				
第10回：生徒指導と学級経営(3)小学校中・高学年の学級経営の実際				
第11回：生徒指導と学級経営(4)中学校・高等学校の学級経営の実際				
第12回：教育相談—児童生徒、保護者				

第13回：学校がチームで取り組む生徒指導

第14回：学校がチームで取り組む進路指導・キャリア教育

第15回：生徒指導、進路指導の今後の課題

定期試験（レポート）

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』（最新版）

林尚示・伊藤秀樹『教師のための教育学シリーズ⑩ 生徒指導・進路指導 理論と方法』

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学指導要領』（最新版）

同 『中学校学習指導要領』（最新版）

同 『高等学校学習指導要領』（最新版）

学生に対する評価

(1)授業への参加度 60% (2)定期試験レポート 40%

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷口 奈青理
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校における教育相談の意義と課題について理解し、基本的な技法を学ぶ。自ら問題の所在に気づき、その意味と具体的な援助について実践的に考えるため、児童期から思春期・青年期の発達についての心理学的な知見やカウンセリングに関する基礎知識、さまざまな問題や障害とその支援について学ぶ。教育相談での対応に必要な、子どもや保護者の心を理解するための構えについて知る。			
授業の概要			
学校で生じている問題に対処するため、教育相談は、児童・生徒の身体的・知的・情緒的発達を理解した上で、一人ひとりの子どものあり方や生活環境に適した支援をすることが求められている。この講義では児童期から思春期・青年期の発達に関する心理学的な知見やカウンセリングに関する基礎知識、発達障害とその支援などについて理解し、学校や地域と協働して子どもや保護者を援助する方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回：学校における教育相談 意義・課題と理論			
第2回：子ども理解 児童期の発達課題			
第3回：子ども理解 思春期の発達課題			
第4回：子ども理解 青年期の発達課題			
第5回：子ども理解 不適応 心身に現れる問題			
第6回：子ども理解 不適応 行動に現れる問題			
第7回：カウンセリングの理論			
第8回：カウンセリングの姿勢と技法			
第9回：子どもの心理療法（プレイセラピー）の理論と技法			
第10回：不登校			
第11回：いじめ			
第12回：発達障害 自閉症スペクトラム障害			
第13回：発達障害 注意欠陥・多動性障害、学習障害			
第14回：連携と協働			

第15回：保護者支援
定期試験
テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 授業中、適宜紹介する。
学生に対する評価 授業態度・意欲（25％）、定期試験（75％）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2 単位		担当教員名：谷口 奈青理・四方 保仁・ 西川 幸余・林 正幸	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 80人 (複数の教員が担当し、受講者を 3 クラスに配当)					
教員の連携・協力体制 3 クラス制を基礎としながら、各課題講義を通じてみえてくる、受講者各位の習熟度の情報を共有化し、それらの情報を踏まえた指導を行う。また課題講義・学外見学などの経験を生かした模擬授業に取り組みせ、必要に応じて各担当教員が個別対応を行う。					
授業のテーマ及び到達目標 教職課程のしめくりとして、次の四項目を踏まえて、総合的に教員としての資質・能力の向上をめざす。 ・ 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ・ 社会性や対人関係能力に関する事項 ・ 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ・ ICTの活用を含む教科内容等の指導力に関する事項					
授業の概要 4 名の教員によるリレー講義をもとに、受講生が、グループ討論・ロールプレイング・模擬授業などをおこなう。あわせて、模擬授業では「ICT (情報通信技術) の活用」に関する内容を取り扱う。各教員の担当テーマは、それぞれ次のとおりである。 【林正幸：教職の意義や教員の役割、職務内容について 西川幸余・四方保仁：社会性や対人関係能力を育てる学級経営 谷口奈青理：児童生徒理解について】 第 1 回～第 3 回、第 7 回と第 1 5 回の授業では、3 クラス合同で授業を行う。 第 4 回～第 1 4 回の授業では、A～C のクラスに分かれて講義と実践を行う。 なお、第 1 回授業時に受講生は履修カルテを活用して自身のこれまでの学習内容、理解度を振り返り、担当教員は履修カルテに記載された受講生の自己評価等を参照の上、第 2 回以降の授業を通じて教員として必要な資質能力の補完的指導を行う。					
授業計画 第1回：全体によるテーマの確認とクラスわけ<林、西川、谷口、四方> (履修カルテを活用した各自の学習内容、理解度の振り返り) 第2回：全体を対象とした教職の意義に関する講義 (地元教育委員会) 第3回：全体を対象とした文章表現に関する講義・実践(ゲスト講師) 第4回：課題講義・実践① A 教職の意義や教員の役割、職務内容<林>・B 児童生徒理解<谷口> C 社会性や対人関係能力を育てる学級経営<西川・四方> 第5回：課題講義・実践② A 社会性や対人関係能力を育てる学級経営<西川・四方>・ B 教職の意義や教員の役割、職務内容<林>・C 児童生徒理解<谷口>					

第6回：課題講義・実践③

- A 児童生徒理解＜谷口＞・B 社会性や対人関係能力を育てる学級経営＜西川・四方＞
C 教職の意義や教員の役割、職務内容＜林＞

第7回：自律する教員とは一大谷大学で育てる教員像―

第8回：学外見学

第9回：学外見学のまとめ グループによる報告とディスカッション

第10回：全体を対象とした道德教育に関する講義・グループ討論

第11回：全体を対象とした道德教育に関する模擬授業実践

第12回：特別活動等に関する模擬授業①（全学的な行事を中心に）

第13回：特別活動等に関する模擬授業②（宿泊を伴う体験活動を中心に）

第14回：特別活動等に関する模擬授業③（職業体験・キャリア教育を中心に）

第15回：地元教育委員会による講義と資質能力の確認、まとめ＜林、西川、谷口、四方＞

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

各課題講義時に紹介する。

学生に対する評価

授業への積極的な参加：20% 課題講義の理解：40%

グループ討論・ロールプレイング・模擬授業：40%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。